

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成25年度実績—

平成26年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
幼稚園の教育	
創意に満ちた信頼される園経営の推進、一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	
家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	7
子育て支援等の多様なニーズへの対応	9
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	12
小・中学校の教育	
創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	13
学力向上を図る学習指導の工夫改善	15
3 5 人学級を標準とする学級編制を図るための教職員の配置	17
特別支援教育の充実	18
家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	20
社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	21
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	23
心の教育の充実を図るための道徳教育及び生徒指導の推進	25
いじめを許さない学校づくりの推進	26
健やかな体を培う体育・健康教育の充実	28
自らの命を守るための防災教育の推進	30
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	31
幼児期（芽生え期）	32
青少年期（成長期）	34
成年期（成熟期）	36
社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	37
国際理解のための学習や機会の提供	39
文化芸術の推進	40
文化財の保存・愛護と活用の推進	41
スポーツ活動の推進	44
3 学識経験者の意見	46
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	48

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

教育委員会の事務の管理及び執行の点検・評価報告書は、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況についての点検・評価が義務付けられたことにより実施するものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図る。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第27条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定された。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定した。教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定した。

- 田幡 憲一 氏 【専門領域】 教科等指導法
【研究テーマ】 理科教育、教師教育
【現在】 宮城教育大学教職大学院教授

- 越中 康治 氏 【専門領域】 発達心理学
【研究テーマ】 社会性・道徳性の発達
【現在】 宮城教育大学准教授

(3) 点検及び評価の対象

平成25年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行った。

平成25年度 栗原市教育基本方針

急速な社会変革が進む中、「栗原市総合計画」では、市の将来像として「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造をめざしている。

これを受け、栗原市教育委員会は、学びの連続性を重視した「学府くりはら」を推進するとともに、豊かな感性と創造性をもち主体的に生きる人間を育成することをめざし、次のことを重点に取り組む。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術
- 楽しさと活力ある生涯スポーツ

教育の基本目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の基本目標

- 確かな学力を育成する
- 豊かな心を育む
- 心身の健康と体力の向上を図る

めざす『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の基本目標

- いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【確かな学力を育成する】

幼稚園の教育

創意に満ち信頼される園経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼児・家庭・地域の実態と課題に応じた創意ある教育課程の編成と実施 ② 幼児の発達の特徴を踏まえた興味・関心・意欲を引き出す指導計画の作成と実施 ③ 障害のある幼児に対する個別の指導計画の作成・実施と園内支援体制の構築
一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的な遊びや体験を通じた課題の発見・課題解決能力の育成 ② 心身の発達と生活体験に即し、道徳性や思いやりの心等の社会性の育成 ③ 基本的な生活習慣や主体的な生活態度、集団生活の基礎等の育成 ④ 幼児の主体的な活動を促す教育環境の整備と施設・設備の充実
家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報交換を密にした、園と家庭・地域との連携の強化 ② 小学校教育への円滑な接続・連携、他の幼稚園や保育所、高齢者や地域の団体等との交流やふれあいの場の充実 ③ 教育活動、園運営等の学校評価の実施と結果の公表 ④ 学校評議員制度の導入と地域に開かれた園経営・運営の充実 ⑤ 幼児の安全確保に向けた、危機管理体制の確立と関係機関との連携の強化
子育て支援等の多様なニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の幼児教育の支援センターとしての役割を果たし、家庭・地域における子育て支援の推進 ② 預かり保育の環境の整備と保育内容の充実 ③ 幼稚園・保育所の目標や保育内容の一元化を図るカリキュラムの作成
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼稚園教諭としての専門性を高める研修の推進 ② 幼児一人一人の発達を促す指導方法や活動形態等の工夫改善 ③ 園の教育課題の解決や実践的指導力を高める園内研究の推進 ④ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実

小・中学校の教育

創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実 ② 「生きる力」を育む創意と特色ある教育課程の編成と実施 ③ 学校の説明責任を明確にし、保護者・地域との相互理解と協力体制の構築 ④ 教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営の展開 ⑤ 児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備 ⑥ 学校間（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）の積極的な連携 ⑦ 学校再編における円滑な学校運営
学力の向上を図る学習指導の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る指導の充実 ② 各教科・領域における知識・技能の活用する学習活動と言語活動の充実 ③ 児童生徒の実態や特性等に応じた補足的な学習や発展的な学習の充実 ④ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力を高める体験的・問題解決的な学習の充実 ⑤ 家庭との連携による自主的学習の習慣化と家庭学習や読書の定着 ⑥ 学習指導に関するP D C Aサイクルの確立（計画（P）・実践（D）・評価（C）・改善（A）） ⑦ 教員や教科の特性を生かした教科担任制や少人数指導の工夫と実施 ⑧ 教育効果を高めるための教材開発と研修の充実及び学校施設・設備の活用と整備 ⑨ I C T（情報通信技術）を活用した授業づくりの推進 ⑩ 市内全小・中学校での標準学力テストの実施と活用
35人学級を標準とする学級編制を図るための教職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人一人に目が行き届き、個に応じたきめ細かな学習指導の推進 ② 学習習慣や生活習慣の確実な定着を図る指導の充実 ③ 問題行動の早期発見、早期対応につなげる生徒指導の充実

特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 障害のある児童生徒の理解を深め、自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため支援学校等関係機関との連携の充実 ② 「特別支援学級」や「通級による指導」の弾力的運用等や個別の指導計画の活用及び特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築 ③ 特別支援教育担当教員の研修と専門性の確保 ④ 「通級による指導」を含めた適切な就学指導の在り方の検討
家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と教育活動の積極的な公開 ② 保護者・地域の教育力（人材・教材）の積極的な活用と学校施設等の開放 ③ 教育活動、学校運営等の学校評価の実施と結果の公表 ④ 学校評議員制の積極的な活用と地域に開かれた学校経営・運営の充実
社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境問題に関心をもち、進んで課題解決に取り組む態度を育てる環境教育の充実 ② 情報活用能力の育成や情報モラルの向上を図る情報教育の推進と個人情報の保護 ③ 福祉に対する理解と関心を深め、主体的に取り組む実践的態度を育てる福祉教育の充実 ④ 日本及び外国の文化や伝統に対する理解とコミュニケーション能力の素地を養う外国語活動の充実 ⑤ 社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探求するよう促す志教育の充実と推進（職場体験、起業教育等への取組） ⑥ 読書活動の推進と読書環境の整備充実
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法改善の研修の推進 ② 自校の教育課題の解決や実践的指導力を高める校内研究の推進 ③ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実

【豊かな心を育む】

いじめを許さない学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する体制の整備 ② いじめについて教職員間の共通理解を図るとともに、学校全体で組織的に取り組む体制の整備 ③ 問題解決のための警察や関係機関等との円滑な連携と情報共有の推進
心の教育の充実を図るための道徳教育及び生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との連携を図り、社会体験や自然体験等の体験活動を生かした道徳教育の充実 ② 児童生徒の理解を基盤とした人間性豊かな心と主体的・自律的な態度の育成 ③ 「早寝・早起き・朝ごはん」と「家庭学習」を基軸とした基本的な生活習慣の形成 ④ 自己指導能力の育成と共感的な人間関係の確立を図る積極的な生徒指導の推進 ⑤ みやぎアドベンチャープログラム（MAP※）の推進及びスクールカウンセラー・教育相談員等との連携による学校生活への適応指導の充実 <p>※MAP…豊かな人間関係を構築するための体験を取り入れた学習指導法の一つであり、宮城県独自の教育手法。</p>

【心身の健康と体力の向上を図る】

健やかな体を培う体育・健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 心身の健康と安全な生活及び交通安全の指導の強化 ③ 学校栄養士や地域人材と連携した食育の推進 ④ 学校保健活動の活性化とカウンセラー等との連携による適応指導の推進 ⑤ 運動部活動、地域のスポーツクラブや体育行事への参加の奨励と事故の未然防止
自らの命を守るための防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 危険を予知し、回避する能力を高めるための防災教育の推進 ② 防災の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実 ③ 地域の避難拠点としての校内体制の整備 ④ 児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との連携の強化

社会教育の具体的施策

【いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供 幼児期（芽生え期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
生涯にわたる学習機会の提供 青少年期（成長期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 子育て支援の充実 ② 地域少年団体活動の育成、支援 ③ 少年教育推進体制の整備 ④ 協働教育事業の推進（事業取り組みを推進・ボランティアの育成と活用） ⑤ 青年団体及びサークルの育成、支援 ⑥ 青年教育推進体制の整備 ⑦ 学習、交流活動の機会と場の提供 ⑧ 団体指導者の育成強化
生涯にわたる学習機会の提供 成年期（成熟期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備 ③ 指導者の養成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の展開
社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズ把握のための調査 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ 文化芸術を生かした活動の推進と自主的活動への支援 ⑦ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑧ 社会教育関係職員の研修機会の充実と専門職員の養成
国際理解のための学習や機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 学校、地域と連携した交流活動の推進 ④ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした芸術文化の推進】

文化芸術の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化芸術団体の育成、支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 体験機会の拡充 ④ 伝統の継承と普及活動への支援 ⑤ 文化施設の設備充実と環境整備
---------	---

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・愛護と活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の文化財の発掘、保存活用と公開 ② 史跡の公有化と環境整備の推進 ③ 文化財に対する理解と愛着を深めるための広報活動の充実
-----------------	---

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツの場の提供と、市民が行う健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 学校との連携強化
-----------	--

点検及び評価項目一覧（平成25年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、 生きる力を育む学校	確かな学力を育成する (幼稚園教育)	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	1 「幼稚園補助教諭等配置事業」 「栗原市非常勤職員研修会の開催」	B
			2 「防災教育の推進」	B
		子育て支援等の多様なニーズへの対応	3 「幼稚園預かり保育事業」	B
			4 「幼稚園就園奨励事業」	A
		5 「若柳地区幼稚園の再編事業」	B	
		教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	6 「10年経験者研修」 「初任者研修」	B
	確かな学力を育成する (小・中学校教育)	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	7 「児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備」	B
			8 「学校教育施設の整備」	B
		学力の向上を図る学習指導の工夫改善	9 「確かな学力・輝きプラン」	B
			10 「学府くりはら塾」 「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
		35人を標準とする学級編制の実施と任期付市費負担教員の採用	11 「35人を標準とする学級編制の実施と任期付市費負担教員の採用」	A
		特別支援教育の充実	12 「特別支援連絡協議会」 「特別支援教育コーディネーター連絡協議会」 「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（モデルスクール）」	B
			13 「学校活性化プラン事業」	B
		家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	14 「学校評価の実施」 「地域の教育力の活用」	B
		社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	15 「志教育支援事業」	B
			16 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」	B
		教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	17 「初任者研修」 「栗原市教育研究協議会への補助」	B
			18 「学力向上講演会」	—
	豊かな心を育む	心の教育の充実を図るための道徳教育及び生徒指導の推進	19 「教育相談員」 「適応指導教室事業」	B
			20 「問題を抱える子ども等の自立支援事業」 「スクールソーシャルワーカー活用事業」	B
		いじめを許さない学校づくりの推進	21 「いじめ防止対策事業」	B
	心身の健康と体力の向上を図る	健やかな体を培う体育・健康教育の充実	22 「学校訪問指導事業」	B
			23 「夏季休業中プール開放事業」	B
		自らの命を守るための防災教育の推進	24 「防災主任研修会」	B
共に助け合い潤いに 満ちた地域社会	いつでも、どこでも、だれでも 学べる生涯学習の推進と学びを 生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	25 「家庭教育学級」	B
		(1) 幼児期（芽生え期）	26 「サポーター養成」	B
			27 「ブックスタート事業」	B
			28 「ジュニアリーダー育成事業・派遣事業」	B
		(2) 青少年期（成長期）	29 「少年体験教室・青少年育成団体との連携・育成者の支援」	B
			(3) 成年期（成熟期）	30 「講演会・シニアセミナー・レディースカレッジ等」
		社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	31 「学習まつり・芸能祭・文化祭」	B
			32 「協働教育コーディネーター研修会」 「学校支援ボランティア実践発表会」	B
国際理解のための学習や機会の提供	33 「青空大使派遣事業」	B		
地域の特性を生かした かおり高い文化芸術	地域に根ざした芸術文化の推進	文化芸術の推進	34 「見てけらいん美術展ほか、各種展覧会」 「音楽アウトリーチほか、各種芸術鑑賞会」	B
			35 「埋蔵文化財発掘調査事業」	B
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保護・愛護と活用の推進	36 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
			37 「史跡伊治城跡調査事業」 「文化財保護保存事業」	B
			38 「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」	B
楽しさと活力ある生涯 スポーツ	心身の健康保持増進とスポーツ の推進	スポーツ活動の推進	39 「栗原市全国大会等参加補助金」 「栗原市スポーツ活動費助成補助金等交付事業」	B

2 点検・評価の結果

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)				
	具体的施策	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進		担当課 学校教育課				
1 目的								
幼児・家庭・地域の実態と課題に応じた創意ある教育課程の編成と実施に努め、基本的な生活習慣や主体的な生活態度、集団生活の基礎を育成する。								
2 具体的事業								
施策を構成する事業								
1 「幼稚園補助教諭等配置事業」 「栗原市非常勤職員研修会の開催」								
事業概要								
園内支援体制構築のため、市内幼稚園に必要なに応じた補助教諭等を配置し、教育活動の補助と安全確保を充実させ、園児の健全育成を図る。また、特別支援等に係る補助員の専門性向上に向けた研修会を開催し、実践に生かせるスキルアップを図る。								
3 平成25年度の取り組みと自己評価								
取り組みと成果								
補助教諭等を配置することにより、多くの目で園児を見守ることができた。また、補助員の研修会を実施し、実践に行かせるスキルアップができた。								
配置幼稚園数	欠員補充補助教諭	障害児対応補助教諭	産休病休代替補助教諭	障害児対応補助員	預かり対応補助教諭	預かり対応補助員	看護師(准看護師)	合計
13園	4人	23人	0人	6人	9人	10人	2人	54人
※ 市内幼稚園数 15園 (うち2園休園)								
事業名	栗原市非常勤職員研修会							
日時	平成25年 7月12日(金)							
場所	金成庁舎 (ほたるホール)							
参加数	66人							
目的	栗原市非常勤職員(幼稚園、小・中学校勤務者)を対象に、特別支援教育への理解及び障害を持つ幼児及び児童生徒への対応についての知識や技能の向上を図る。							
内容	講話「発達障害のある幼児及び児童生徒に対する具体的支援について」 講師 宮城県立金成支援学校 教諭 菅原 一子							
評価								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。							
	B 概ね計画どおり目標が達成された。							
	C 課題があり、改善を要する。							
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針								
限られた人員の中で、個々の発達段階に応じた支援ができるよう工夫する必要がある。			➡	他園の指導主事訪問を参観する機会を持つよう働きかけるとともに、平成26年度開設の教育研究センターを活用し、非常勤職員研修会の内容の検討をする。				
5 学識経験者の意見								
障害のある幼児・児童・生徒に対してきめ細かい保育・支援を行うためには、幼稚園教諭及び幼稚園補助教諭等の適切な配置が重要である。また、専門性向上のために、非常勤職員が定期的に研修を受ける機会を今後も継続して保障していくことが重要である。								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)																																																
	具体的施策	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進		担当課 学校教育課																																																
1 目的																																																				
災害時等における幼児の安全確保に向けて、危機管理体制の確立と関係機関との連携強化を図る。																																																				
2 具体的事業																																																				
施策を構成する事業																																																				
2 「防災教育の推進」																																																				
事業概要																																																				
幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図り、適切な訓練を実施するために、防災マニュアルの見直しを行うとともに、関係機関との連携を図りながら、防災担当者を中心として防災教育に取り組む。																																																				
3 平成25年度の取り組みと自己評価																																																				
取り組みと成果																																																				
<p>防災マニュアルの見直しを行った幼稚園は、13園（100%）である。 また、関係機関と連携して避難訓練に取り組んだ幼稚園は、昨年度の6園から10園に増えた。 さらに、避難訓練以外の防災教育については、すべての幼稚園で行っており、日常的に絵本や紙芝居などを活用して防災教育に取り組んだ。このことから、職員が日頃から危機管理意識をもって保育活動を行っていることが分かった。また、園児の防災意識を高めることにもつながった。</p> <p>連携している関係機関や避難訓練以外の防災教育について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>幼稚園名</th> <th>連携している関係機関</th> <th>避難訓練以外の防災教育</th> <th>幼稚園名</th> <th>連携している関係機関</th> <th>避難訓練以外の防災教育</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築館幼稚園</td> <td>PTA、消防署</td> <td>絵本・紙芝居の読み聞かせ</td> <td>一迫幼稚園</td> <td>消防署</td> <td>防災ビデオや防災カードの活用</td> </tr> <tr> <td>玉沢幼稚園</td> <td>消防署</td> <td>紙芝居、消防署見学</td> <td>瀬峰幼稚園</td> <td>PTA、消防署</td> <td>紙芝居や絵本の読み聞かせ</td> </tr> <tr> <td>岩ヶ崎幼稚園</td> <td></td> <td>DVD視聴や紙芝居</td> <td>鶯沢幼稚園</td> <td></td> <td>大型絵本の活用</td> </tr> <tr> <td>尾松幼稚園</td> <td>PTA、消防署</td> <td>紙芝居や絵本の読み聞かせ</td> <td>金成幼稚園</td> <td>消防署</td> <td>紙芝居、絵本の読み聞かせ</td> </tr> <tr> <td>栗駒幼稚園</td> <td>駐在所、消防署</td> <td>紙芝居や絵本の読み聞かせ</td> <td>ふたば幼稚園</td> <td></td> <td>絵本や紙芝居</td> </tr> <tr> <td>鳥矢崎幼稚園</td> <td>消防署</td> <td>園長講話や紙芝居</td> <td>花山幼稚園</td> <td>消防署、警察署</td> <td>消防士や警察官のお話</td> </tr> <tr> <td>高清水幼稚園</td> <td>PTA、消防署</td> <td>消防署員による防災ショー</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※太字の幼稚園が、平成25年度新規に関係機関と連携して避難訓練に取り組んだ幼稚園</p>					幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育	幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育	築館幼稚園	PTA、消防署	絵本・紙芝居の読み聞かせ	一迫幼稚園	消防署	防災ビデオや防災カードの活用	玉沢幼稚園	消防署	紙芝居、消防署見学	瀬峰幼稚園	PTA、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ	岩ヶ崎幼稚園		DVD視聴や紙芝居	鶯沢幼稚園		大型絵本の活用	尾松幼稚園	PTA、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ	金成幼稚園	消防署	紙芝居、絵本の読み聞かせ	栗駒幼稚園	駐在所、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ	ふたば幼稚園		絵本や紙芝居	鳥矢崎幼稚園	消防署	園長講話や紙芝居	花山幼稚園	消防署、警察署	消防士や警察官のお話	高清水幼稚園	PTA、消防署	消防署員による防災ショー			
幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育	幼稚園名	連携している関係機関	避難訓練以外の防災教育																																															
築館幼稚園	PTA、消防署	絵本・紙芝居の読み聞かせ	一迫幼稚園	消防署	防災ビデオや防災カードの活用																																															
玉沢幼稚園	消防署	紙芝居、消防署見学	瀬峰幼稚園	PTA、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ																																															
岩ヶ崎幼稚園		DVD視聴や紙芝居	鶯沢幼稚園		大型絵本の活用																																															
尾松幼稚園	PTA、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ	金成幼稚園	消防署	紙芝居、絵本の読み聞かせ																																															
栗駒幼稚園	駐在所、消防署	紙芝居や絵本の読み聞かせ	ふたば幼稚園		絵本や紙芝居																																															
鳥矢崎幼稚園	消防署	園長講話や紙芝居	花山幼稚園	消防署、警察署	消防士や警察官のお話																																															
高清水幼稚園	PTA、消防署	消防署員による防災ショー																																																		
評価																																																				
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。</p>																																																			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																																																				
幼稚園での避難訓練や日常的な防災教育が、小学校の防災教育の基礎となるよう連携を深めていく必要がある。		➡	小学校と情報交換をしながら、幼小の連携が図られるように、研修会で避難訓練の内容等を検討していく。																																																	
5 学識経験者の意見																																																				
すべての幼稚園で防災マニュアルの見直しが行われ、保育の中で絵本や紙芝居などを活用して日常的に防災教育が行われたことは評価できる。今後は、PTAや消防署・警察署等の関係機関と連携して、避難訓練を行う幼稚園がさらに増加することが期待される。																																																				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)
	具体的施策	子育て支援等の多様なニーズへの対応		担当課 学校教育課

1 目的

利用者ニーズの多様化に対応するため、幼稚園の教育時間終了後、家庭において保育に欠ける園児を対象に預かり保育を実施し、園児の心身の健全な発達を図るとともに、子育て支援の充実を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

3 「幼稚園預かり保育事業」

事業概要

幼稚園の教育時間終了後及び長期休業時において、保育に欠ける園児を対象に、市立6幼稚園で預かり保育を実施する。また、保護者の急病等により一時的に保育に欠ける園児を対象に、一時預かり保育を行う。

平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加し、利用者ニーズも多岐にわたってきている。平成25年度は、長期休業中の受入開始時刻を午前8時から午前7時30分に早め、サービスの向上を図った。

平成26年3月1日現在

	預かり保育 実施幼稚園	3歳児	4歳児	5歳児	合計	一時預かり 延べ人数
1	築館			59人	59人	1人
2	岩ヶ崎		22人	17人	39人	71人
3	尾松		10人	21人	31人	26人
4	一迫		27人	22人	49人	38人
5	ふたば	31人	33人	21人	85人	151人
6	花山	1人	6人	3人	10人	13人
	合計	32人	98人	143人	273人	300人

※一時預かり延べ人数は、3月31日現在

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針


利用希望者の増加に伴い定員の見直しとその体制整備が必要である。また、預かり保育未実施地区の解消を図る必要がある。



平成26年度は、築館幼稚園及びふたば幼稚園の定員の見直しを行う。また、瀬峰幼稚園での預かり保育を検討する。

5 学識経験者の意見

長期休業中の受け入れ開始時刻を早めるなど、利用者（保護者）ニーズの多様化に対応すべくサービスの向上を図っているといえる。他方、定員の見直しに加えて、当該事業が幼稚園教諭等にとって過重な負担となっていないか、さらには保育の質が保障されているかという点についても留意する必要がある。

施策体系	基本針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)																			
	具体的施策	子育て支援等の多様なニーズへの対応		担当課 学校教育課																			
1 目的																							
公立及び私立幼稚園に在園する園児の保護者に対し、所得に応じて、就園上の経済的負担の軽減を図る。また、私立幼稚園の教育条件の維持・向上並びに就園及び幼稚園運営に必要な補助を行い、子育て支援策の充実を図る。																							
2 具体的事業																							
施策を構成する事業																							
4「幼稚園就園奨励事業」																							
事業概要																							
公立幼稚園に通園する低所得世帯の保護者に対して授業料を減免し、保護者の経済的負担の軽減を図る。 また、私立幼稚園に対しては、私立幼稚園就園奨励費補助金を交付し、保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、私立幼稚園経営安定のため、私立幼稚園運営費補助金を交付する。																							
3 平成25年度の取り組みと自己評価																							
取り組みと成果																							
公立幼稚園及び私立幼稚園に通園する園児の保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、私立幼稚園の運営の安定に寄与した。 なお、平成25年度から若柳地区の幼稚園は、学校法人若柳よしの幼稚園に移管したため、就園奨励費補助金について、対象人数が大幅に増加した。																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">幼稚園就園奨励費補助金</th> <th colspan="2">私立幼稚園運営費補助金</th> </tr> <tr> <th>対象人数</th> <th>金額</th> <th>対象園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立幼稚園</td> <td>23人</td> <td>(減免額) 690,000円</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>私立幼稚園</td> <td>204人</td> <td>(補助金) 22,543,300円</td> <td>2園</td> <td>(補助金) 1,600,000円</td> </tr> </tbody> </table>					項目	幼稚園就園奨励費補助金		私立幼稚園運営費補助金		対象人数	金額	対象園数	金額	公立幼稚園	23人	(減免額) 690,000円	—	—	私立幼稚園	204人	(補助金) 22,543,300円	2園	(補助金) 1,600,000円
項目	幼稚園就園奨励費補助金		私立幼稚園運営費補助金																				
	対象人数	金額	対象園数	金額																			
公立幼稚園	23人	(減免額) 690,000円	—	—																			
私立幼稚園	204人	(補助金) 22,543,300円	2園	(補助金) 1,600,000円																			
評価																							
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																						
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																							
なし 																							
5 学識経験者の意見																							
低所得者世帯の保護者の経済的負担軽減と私立幼稚園の運営の安定に寄与したものと評価できる。																							

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)								
	具体的施策	子育て支援等の多様なニーズへの対応		担当課 学校教育課								
1 目的												
全国的な少子化傾向が続き、幼稚園（学級数及び学級人数）の小規模化が顕著になり、今後、ますます進行していくことが予想される。また、幼児教育の段階では「子どもたち同士が群れて遊ぶ」という要素が大事である。このことから、一定規模の確保を目指した幼稚園の再編と、3年保育の早期実現及び幼児教育の充実を図る。												
2 具体的事業												
施策を構成する事業												
5「若柳地区幼稚園の再編事業」												
事業概要												
平成25年4月から栗原市立学校再編計画に基づき、若柳地区4公立幼稚園を廃止し、学校法人吉野学園（若柳よしの幼稚園）が幼稚園経営を担うことから、指定幼稚園運営費補助金の交付や通学支援及び給食の提供を行い、公立幼稚園との均衡を図る。												
3 平成25年度の取り組みと自己評価												
取り組みと成果												
<p>若柳よしの幼稚園に対し、通学支援としてスクールバスを運行することにより、安全な通園を確保することができた。また、給食を提供することにより、園児の健康増進と食育の推進につながった。さらに、指定幼稚園運営費補助金を交付することにより、公立幼稚園との均衡が図られた。</p> <p>若柳よしの幼稚園入園者数（平成25年4月1日現在）</p> <table border="0"> <tr><td>3歳児</td><td>51人</td></tr> <tr><td>4歳児</td><td>51人</td></tr> <tr><td>5歳児</td><td>74人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>176人</td></tr> </table> <p>指定幼稚園運営費補助金 139人 9,344,700円</p>					3歳児	51人	4歳児	51人	5歳児	74人	合計	176人
3歳児	51人											
4歳児	51人											
5歳児	74人											
合計	176人											
評価												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。											
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針												
幼稚園施設として旧若柳幼稚園の園舎を利用したことから、施設が全体的に狭く、行事等を行う際に支障がある。		➡	園舎などの施設整備については、園児数の推移をみながら、今後、検討していく必要がある。									
5 学識経験者の意見												
幼稚園の再編で一定規模が確保されたことにより、幼児が集団の中で多様な経験をする機会が増加したものと推察される。他方、現在の園庭や園舎全体が、幼児の安全と安心、遊びなどの活動の充実を保障する環境となっているかを十分に検証し、必要に応じて改善を図ることが求められる。												

施策体系	基本針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
幼稚園教諭としての専門性を高める研修を推進するとともに、幼児一人一人の発達を促す指導方法や活動形態等の工夫改善を図る。 園の教育課題の解決や実践的指導力を高める園内研究の推進するとともに、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
6「10年経験者研修」「初任者研修」				
事業概要				
幼稚園教諭としての専門性を高めるため、10年経験者及び初任者に対し、研修に関する支援や指導を行う。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
10年経験者研修及び初任者研修を実施したところ、該当教諭全員が熱心に研修に取り組み、教師としての自覚を高め、研修を修了することができた。				
	対象者数	共通研修	選択研修	園内研修
10年研	3人	6日	3～5日	10日
<ul style="list-style-type: none"> 宮城教育大学附属幼稚園公開研修会参観 テーマ研究発表会等 				
	対象者数	園外研修	園内研修	
初任研	6人	9日	10日	
[一般研修]		[保育研修]		
<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の意義と役割 幼稚園の教育目標と組織運営 園内諸規定の理解 等 		<ul style="list-style-type: none"> 保育の1日の流れ 幼児の健康安全指導の進め方 基本的な生活習慣の育成 等 		
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
これまでの研修を継続していくとともに、経験年数に応じた研修等も検討する必要がある。		➡	平成26年度開設の栗原市教育研究センターと連携を図り、階層別研修等の検討を行う。	
5 学識経験者の意見				
公開研修会の参観等、園内外での研修の機会が確保されている点は評価できる。今後は、新設の栗原市教育研究センターとの連携の下、さらなる研修の充実が図られることが期待される。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)						
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進		担当課 学校教育課						
1 目的										
<p>保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実を図るため、教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営のもと、創意と特色ある教育課程の編成と実践を通して、「生きる力」を育む。</p> <p>また、学校再編における円滑な学校運営を行うとともに、児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備を進める。</p>										
2 具体的事業										
施策を構成する事業										
7「児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備」										
事業概要										
<p>少子化の影響で園児・児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいる。小中学校における社会性を身につけるための環境と教育内容の質的な充実を図るため、学校再編により適正規模を確保するとともに、より良い教育環境の整備と円滑な学校運営のため、将来的な園児・児童生徒数の推移などを考慮して適正配置に努める。</p>										
3 平成25年度の取り組みと自己評価										
取り組みと成果										
<p>栗原市立学校再編計画に基づき、保護者を含む地域住民の合意が整った地区ごとに、新学校の開校に向けて準備を進めてきた。併せて、平成26年4月1日の開校に向けて、金成小中学校校舎等の建設工事を実施してきた。</p> <p>平成26年4月開校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>新学校名</th> <th>再編対象校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金成地区</td> <td>金成小学校</td> <td>沢辺小学校、金成小学校、萩野小学校、萩野第二小学校、津久毛小学校</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成25年度4月に再編スタートした若柳小学校、栗駒小学校、一迫小学校、栗駒中学校の保護者や児童生徒を対象としたアンケートの結果、過半数の保護者と80%前後の児童生徒から「良かった」「どちらかと言えば良かった」の声が寄せられ、一定規模の集団による教育活動の成果が理解されたと考えられる。児童生徒からは、「友達が増えて良かった」「行事が楽しくなり、楽しみになった」「学校に行くのが楽しくなった」等の意見が寄せられた。少数意見ではあるが、「友達とうまくできない」「いじめや悪口が怖い」「勉強が分からなくなった」との声もあるので、学校と連携して児童生徒の不安解消に努める必要がある。</p> <p>また、平成25年5月に策定した、栗原市立学校再編計画実施計画<後期計画>に基づき、学校再編の推進を進める必要がある。</p>					地区名	新学校名	再編対象校	金成地区	金成小学校	沢辺小学校、金成小学校、萩野小学校、萩野第二小学校、津久毛小学校
地区名	新学校名	再編対象校								
金成地区	金成小学校	沢辺小学校、金成小学校、萩野小学校、萩野第二小学校、津久毛小学校								
評価										
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>									
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針										
後期計画を推進するため、保護者説明会等の実施を行い、合意形成を推進していく必要がある。		➡	後期計画に基づき、説明・意見交換会を実施していく。							
5 学識経験者の意見										
<p>適正な児童・生徒数の確保のために、計画的に学校の統合を進めていることは評価できる。80%を超える児童生徒から肯定的な評価を得ることができたことは、関係各位の努力の結果である。一方、住居から遠い学校に通わせる地域・保護者の不安は当然でもあり、丁寧で粘り強い説明が求められる。</p>										

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)																											
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進		担当課 教育総務課																											
1 目的																															
<p>保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実を図るため、教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営のもと、創意と特色ある教育課程の編成と実践を通して、「生きる力」を育む。</p> <p>また、学校再編における円滑な学校運営を行うとともに、児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備を進める。</p>																															
2 具体的事業																															
施策を構成する事業																															
8「学校教育施設の整備」																															
事業概要																															
<p>児童生徒が生き生きと活動するためには教育環境の整備が必須であることから、経年劣化等による老朽学校教育施設の改築工事や大規模改修工事を行い、施設の長寿命化、安全確保に努める。併せて、学校再編に伴い必要となる学校教育施設整備を進める。</p>																															
3 平成25年度の取り組みと自己評価																															
取り組みと成果																															
<p>栗原市総合計画に基づき、若柳中学校体育館大規模改修工事やプール改築工事を実施した。また、老朽化に伴う施設の改修工事や完全確保のための整備事業を実施した。</p> <p>平成25年度工事費総額（小中学校費決算額） 853,159 千円</p> <p>平成25年度に実施した主な工事</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>事業年度</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>若柳小学校バスケットゴール改修工事</td> <td>H25</td> <td>756 千円</td> </tr> <tr> <td>栗駒南小学校外壁等改修工事</td> <td>H25</td> <td>52,500 千円</td> </tr> <tr> <td>一迫小学校プールサイド等改修工事</td> <td>H25</td> <td>24,045 千円</td> </tr> <tr> <td>若柳中学校プール改築工事</td> <td>H24～H26</td> <td>191,950 千円</td> </tr> <tr> <td>若柳中学校体育館大規模改修工事</td> <td>H24～H25</td> <td>125,777 千円</td> </tr> <tr> <td>瀬峰中学校校舎屋上防水改修工事</td> <td>H25</td> <td>8,242 千円</td> </tr> <tr> <td>栗駒中学校自転車置場改築工事</td> <td>H25</td> <td>13,650 千円</td> </tr> <tr> <td>栗駒中学校舗装整備工事</td> <td>H25～H26</td> <td>33,000 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、平成25年度の決算額</p>					事業名	事業年度	金額	若柳小学校バスケットゴール改修工事	H25	756 千円	栗駒南小学校外壁等改修工事	H25	52,500 千円	一迫小学校プールサイド等改修工事	H25	24,045 千円	若柳中学校プール改築工事	H24～H26	191,950 千円	若柳中学校体育館大規模改修工事	H24～H25	125,777 千円	瀬峰中学校校舎屋上防水改修工事	H25	8,242 千円	栗駒中学校自転車置場改築工事	H25	13,650 千円	栗駒中学校舗装整備工事	H25～H26	33,000 千円
事業名	事業年度	金額																													
若柳小学校バスケットゴール改修工事	H25	756 千円																													
栗駒南小学校外壁等改修工事	H25	52,500 千円																													
一迫小学校プールサイド等改修工事	H25	24,045 千円																													
若柳中学校プール改築工事	H24～H26	191,950 千円																													
若柳中学校体育館大規模改修工事	H24～H25	125,777 千円																													
瀬峰中学校校舎屋上防水改修工事	H25	8,242 千円																													
栗駒中学校自転車置場改築工事	H25	13,650 千円																													
栗駒中学校舗装整備工事	H25～H26	33,000 千円																													
評価																															
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>																														
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																															
引続き老朽学校施設の長寿命化、安全確保を図っていく必要がある。		➡	計画的に改築事業及び大規模改修事業を実施していく。																												
5 学識経験者の意見																															
<p>岩手・宮城内陸地震における山体の崩壊や、東日本大震災における最大震度の記録など、近年栗原市は大きな自然災害の影響を蒙っている。「安全、安心」の観点からも学校教育施設の整備を積極的に進めていくことが栗原市には求められる。</p>																															

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	学力の向上を図る学習指導の工夫改善		担当課 学校教育課

1 目的
 栗原市内の小・中学校の学力レベルは、全国学力・学習状況調査から見ても、全国平均及び宮城県平均を下回っている状況であることから、学力向上に向けた取組が喫緊の課題となっている。そのため、市内小・中学校の児童生徒の学力向上を目的に、有識者による学力向上に関する取組の検証及び対策の検討、さらには直接児童生徒を支援するための事業を推進する。

2 具体的事業
 施策を構成する事業
9「確かな学力・輝きプラン（注1）」
 (注1) 確かな学力・輝きプラン…未来を担う栗原の子どもたちが「確かな学力」を育むため、平成22年3月に策定。家庭や学校、各種団体がお互いに理解し、協力し合いながら学力向上を推進するもの。

事業概要
 児童生徒の学力を向上させるために、各校で取り組む研修等への支援を行う。また、学力状況や家庭での学習の様子の分析結果に基づき、学校と家庭が連携して児童生徒に学習意欲と学習習慣を身に付けさせるための対策を「確かな学力・輝きプラン」のリーフレットにまとめ、保護者に配布して啓発する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価
 取り組みと成果

輝きプラン推進委員会を年3回開催し、全国学力・学習状況調査や学校生活アンケートなどの分析結果から、市内の児童生徒の課題克服に向けた提言を協議した。それを基にリーフレットを作成し全ての児童生徒に配布し、家庭学習習慣の確立の面から啓発を行った。なお、今年度より標準学力検査(NRT)を全小中学生を対象に実施した。来年度以降は、経年変化等进行分析し、児童生徒の実態把握を行う。
 [リーフレットの主な内容]
 家庭学習に関する調査や全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、予習に取り組む児童生徒の割合の少なさに着目し、リーフレットを作成した。テーマは「予習のすすめ」。栗原市の目標とする予習と復習の割合「予習：復習＝7：3」を目指して予習に取り組むよう提言し働き掛けることができた。

平成25年度 家庭学習に関する調査

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
復習している	66%	69%	76%	78%	82%	71%	71%
予習している	53%	55%	51%	47%	48%	35%	32%

平成25年度 全国学力・学習状況調査(中3)

	市	県
予習している	66%	69%

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
	B 概ね計画どおり目標が達成された。
	C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

今後も標準学力検査や家庭学習調査の分析を継続して行い、児童生徒の現状及び実態に応じた指導改善につなげる方策を提言していく必要がある。	➡	調査結果を分析し、学力向上の具体策の策定に努めていく。また、学力向上の基盤となる望ましい学級づくりに向け、学級生活満足度尺度(QU)調査を実施する。
--	---	--

5 学識経験者の意見
 「確かな学力・輝きプラン」リーフレットに児童生徒に学習意欲と学習習慣を身につけさせる方策を整理したことは、地域に学習への意識を醸成させる活動として評価できる。全国学力・学習状況調査やNRTの結果をもとに、さらに具体的な方策を検討していくことが必要である。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	学力の向上を図る学習指導の工夫改善		担当課 学校教育課

1 目的

栗原市内の小・中学校の児童生徒の学力状況については、全国学力・学習状況調査等の結果を分析すると、全国及び宮城県平均を下回っている状況であることから、学力向上に向けた取組が喫緊の課題となっている。特に、家庭学習等の時間が少なく、学習内容にも工夫が必要である。そこで、市内の小・中学校の児童生徒の学習を支援するための事業を推進する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

10「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」

事業概要

家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。

また、小学生を対象として「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

「学府くりはら塾」と「学び支援コーディネーター等配置事業」の実施結果は次の通りである。小学校の学習会会場は、下半期2か所に増やした。また、学習内容については、思考力・判断力・表現力を伸ばすための応用問題に取り組みせる時間を設け、学習内容の質の向上を図ることができた。学習会後のアンケートによると、「楽しかった」「集中してできた」「自分のめあてが達成できた」等の声が多かった。中には、「もっとやりたかった」「家ではあまりできないので、こういう場があるととてもはかどる」などの要望もあった。

事業名	学府くりはら塾①	学府くりはら塾②
実施期間	8/16～8/20	12/23～12/25
場所	築館中	金成庁舎
対象者	中1～3年	中3年
参加者	535人	150人
指導者	95人	18人

事業名	放課後学習会①	放課後学習会②	週末学習会①	週末学習会②	夏休み学習会	冬休み学習会
実施期間	6/24～7/18	9/18～10/9	11/2～12/7	2/8～3/1	8/21～8/23	12/26～12/27
場所	瀬峰小、鶯沢小	若柳小、栗駒小	栗原文化会館、金成庁舎	栗原文化会館、金成庁舎	金成庁舎	栗原文化会館、金成庁舎
対象者	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年
参加者	405人	480人	364人	258人	213人	232人
指導者	71人	96人	54人	33人	78人	40人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

アンケートに記入された要望等から、学習会の日数や会場数を増やすなどの改善が必要である。



休日の学習会の日数や会場数を検討するとともに、各学校独自の学習会への支援を行い、より多くの児童生徒が参加できる環境を整える。

5 学識経験者の意見

学力向上のためには、児童・生徒が放課後や長期休業中に自主的に学習する環境を整えることが必要である。ボランティア等を活用した学府くりはら塾や放課後学習塾は有効な方法である。その充実のためには参加するボランティアにインセンティブを考えることも重要である。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	35人学級を標準とする学級編制を図るための教職員の配置		担当課 学校教育課

1 目的

きめ細かな教育活動を推進し、学力向上及び学府くりはらの実現を図るため、栗原市立の小学校及び中学校において、少人数学級編制（国・県が定めた1学級の児童又は生徒の数の基準を下回る数で学級を編制）を実施する。そのための任期付市費負担教員を採用し配置する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

11 「35人を標準とする学級編制の実施と任期付市費負担教員の採用」

事業概要

小学校においては、3学年から6学年、中学校においては、2学年から3学年を対象に、よりきめ細やかな教育活動を進め、学校生活の基本となる学習習慣や生活習慣の着実な定着を図るため、1学級35人を超える学級の解消を図り、そのために必要となる教員を確保し、該当する学校に配置する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

35人を標準とする学級編制を実施するため、任期付市費負担教員を採用した。教職員は、生徒指導・学習指導の上でも、子ども一人一人を把握することができ、個に応じた指導ができた。また、児童生徒は、落ち着いた教育環境の中で生活することができた。

平成25年度 配置校及び採用者数

学校名	学 年	必要数	採用者数
築館小学校	3学年・4学年・5学年	3人	3人
若柳小学校	6学年	1人	1人
栗駒小学校	4学年・5学年	2人	2人
高清水小学校	4学年・6学年	2人	2人
栗駒中学校	2学年	1人	1人
合 計		9人	9人

評 価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

任期付市費負担教員を配置したことによる、成果について検証していく必要がある。



学習状況や生活状況の経年変化を把握しながら、その効果について、検証していく。

5 学識経験者の意見

本来任期を付さない教諭の増員が望ましいが、任期付市費負担教員を採用することが現実的な選択であると考えている。多様な児童・生徒を個に応じた指導することを目的とした努力により、必要教員数を確保することができた。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	特別支援教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため、特別支援学校等関係機関との連携を深める。また、個別の指導計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

12「特別支援連携協議会」「特別支援教育コーディネーター連絡協議会」
「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（モデルスクール）（注1）」
（注1）インクルーシブ教育システム…自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられ障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

事業概要

特別支援教育を推進するため支援学校等関係機関との連携強化のため、年3回の会議を開催し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、県や市の関係機関等、それぞれの立場から、特別に支援を要する児童生徒の自立や社会参加を目指し協議を行う。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

関係機関との情報交換を行い、児童生徒一人一人の自立と社会参加に向けた支援の在り方を協議し、特別支援教育の面で連携を深めることができた。また、下部組織として、個別の教育支援計画作成委員会を立ち上げ、年4回の会議を持ち、栗原市「個別の教育支援計画」の様式及び策定の手引きを完成させることができた。

	会議	期日	内容
特別支援連携協議会	第1回会議	5月27日(月)	委嘱状交付、H25年度の活動について
	第2回会議	10月7日(月)	第2回コーディネーター連絡協議会について
	第3回会議	1月20日(月)	個別の教育支援計画の整備等、次年度の活動案について

コーディネーター連絡協議会では、就学相談や就学指導に係る研修や個別支援計画作成のための研修を行い、特別支援教育推進の充実を図った。コーディネーターとしての役割意識を高めることができた。

	会議	期日	内容
特別支援教育コーディネーター連絡協議会	第1回会議	6月28日(金)	講話「就学相談についてー就学基準を踏まえてー」等
	第2回会議	12月10日(火)	講話「個別の教育支援計画の作成と活用」等

さらに、栗駒南小学校では、文部科学省よりインクルーシブ教育システム構築モデル事業のモデルスクールの指定を受け、合理的配慮の在り方に関する研究を重ね、具体例に関する報告書を提出することができた。

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

各校における「個別の教育支援計画」の策定・活用に努めていく必要がある。



「個別の教育支援計画」の整備状況を調査したり、特別支援コーディネーター研修会で啓発を図ったりすることで、更なる活用・推進に努める。

5 学識経験者の意見

特別支援教育コーディネーターの中には、そのための基礎的なトレーニングを学生時代に受けていない場合もあり、連絡協議会を設けて多様な研修を受けたり、また、お互いに学び合う機会をつくる必要がある。おおむね適切であったと理解する。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	特別支援教育の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため、特別支援学校等関係機関との連携を深める。また、個別の指導計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
13「学校活性化プラン事業」				
事業概要				
通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置し、児童の学校生活を支援すると共に、個々のケースに応じた、よりきめ細やかな学習指導や生活指導を行う。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置したことにより、児童・生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があった。				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校 23人 築館小学校1人 宮野小学校1人 富野小学校2人 若柳小学校4人 栗駒小学校2人 栗駒南小学校2人 高清水小学校2人 一迫小学校4人 瀬峰小学校1人 鶯沢小学校1人 津久毛小学校1人 志波姫小学校2人 ○ 中学校 6人 築館中学校2人 若柳中学校1人 栗原西中学校2人 瀬峰中学校1人 				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
補助員としての校内での役割や課題が明確化されていない。		➡	具体的な対応の事例研修を企画するなどし、補助員の資質向上に努める。	
5 学識経験者の意見				
通常学級における特別な支援を要する児童生徒を対象として学習支援を行う補助員を配置することは、当該児童のみならずその周辺の子どもたちにもよい効果を及ぼすことが期待される。一方、多様な児童・生徒を対象とするため対応が難しい場合もあり、補助員に対する定期的な研修等の支援が必要である。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)												
	具体的施策	家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進		担当課 学校教育課 社会教育課												
1 目的																
保護者や地域に教育方針や教育目標等について明確に説明し、教育活動を積極的に公開するとともに、保護者や地域の教育力を積極的に活用していく。																
2 具体的事業																
施策を構成する事業																
14「学校評価の実施」「地域の教育力の活用」																
事業概要																
<p>前年度の学校評価を活かして教育方針や学校行事等を考え、保護者や地域に明確に説明するとともに、教育実践を公開し、学校評価を実施して改善策を検討していくなど、PDCAサイクル(注1)で学校経営を推進していく。</p> <p>また、教育実践の際は、地域の教育力(人材や教材等)を積極的に活用していく。</p> <p>(注1) PDCAサイクル…Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階のサイクルを繰り返すことで、業務を継続的に改善していくこと。</p>																
3 平成25年度の取り組みと自己評価																
取り組みと成果																
<p>すべての学校において学校評議委員会を設置し、地域の声を聴きながら学校評価を行い、その成果と課題を活かして、教育計画を作成した。また、学校の教育方針等については、保護者会等で説明したり、学校要覧等を配布したりして説明した。さらに、学習参観、運動会、学芸会・文化祭等や公開研究会・公開発表会等で教育活動を公開して、地域や保護者の声を聞くなどして、学校経営を工夫・改善することができた。</p> <p>地域の教育力の活用については、社会教育課の学校支援ボランティア事業等により、積極的に活用する学校もあった。</p> <p>学校支援ボランティア事業による活動例(指定校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>活動例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築館小学校</td> <td>登下校の見守り、家庭科・校外学習等への支援</td> </tr> <tr> <td>花山小学校</td> <td>「さくら岡祭り」や校地の環境美化への支援</td> </tr> <tr> <td>高清水小学校</td> <td>「覚満寺そば」の歴史の学習や栽培活動への支援</td> </tr> <tr> <td>鶯沢小学校</td> <td>「文字甚句」や「白鷺太鼓」など地域の伝統文化の学習への支援</td> </tr> <tr> <td>栗原西中学校</td> <td>地域の農業体験活動、「八ツ鹿踊り」の継承などへの支援</td> </tr> </tbody> </table>					学校名	活動例	築館小学校	登下校の見守り、家庭科・校外学習等への支援	花山小学校	「さくら岡祭り」や校地の環境美化への支援	高清水小学校	「覚満寺そば」の歴史の学習や栽培活動への支援	鶯沢小学校	「文字甚句」や「白鷺太鼓」など地域の伝統文化の学習への支援	栗原西中学校	地域の農業体験活動、「八ツ鹿踊り」の継承などへの支援
学校名	活動例															
築館小学校	登下校の見守り、家庭科・校外学習等への支援															
花山小学校	「さくら岡祭り」や校地の環境美化への支援															
高清水小学校	「覚満寺そば」の歴史の学習や栽培活動への支援															
鶯沢小学校	「文字甚句」や「白鷺太鼓」など地域の伝統文化の学習への支援															
栗原西中学校	地域の農業体験活動、「八ツ鹿踊り」の継承などへの支援															
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。															
	C 課題があり、改善を要する。															
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																
地域の教育力の活用を市内すべての小中学校へ広げていく必要がある。		➡	学校支援ボランティア事業による活動例を紹介するなど、情報提供をすることで積極的な活用を促す。													
5 学識経験者の意見																
学校評議員委員会や、学校支援ボランティアなど地域の教育力を活用し、学校の活動を活性化しようとしている。一方、地域との協働自体が目的化することは避けなければならないことであり、真に児童・生徒を育成することに資するものになっているか否かを常に検証しなければならない。																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)									
	具体的施策	社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進		担当課 学校教育課									
1 目的													
夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む志教育の推進に努める。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
15「志教育支援事業（注1）」													
（注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育													
事業概要													
<p>社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについて、自己を見つめ考えさせる志教育の充実と推進を図る。</p> <p>県の「志教育支援事業」の指定を受け、築館中学校区における児童・生徒に、次の7つの取組について支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営 (2) 家庭及び地域、幼・小・中・高等学校と連携した事業の検討と実施 (3) 参考指導事例集を基にした各教科における授業の実践 (4) 講演会等の実施 (5) 小・中・高交流発表会、事例発表会の実施 (6) 事例報告書の作成 (7) 各校種の校内推進委員会の設置及び運営 													
3 平成25年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
築館中学校区が県の「志教育支援事業」の指定を受け、1年間にわたる事業の推進を支援した。異校種連携、地域連携を特色として取り組み、志の高い児童・生徒の育成に寄与することができた。													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>会議・発表会</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月23日（木） ～ 2月13日（木）</td> <td>第1回～12回 連絡協議会</td> <td>・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成</td> </tr> <tr> <td>12月12日（木） 13：30～16：00</td> <td>小・中・高交流発表会 (栗原文化会館)</td> <td>1 発表の部 神楽「鶏舞」 人の生き方を見つめて 未来を築く職場体験学習 中学校の先輩に学ぶ 高校生ティチャーによるサマースクール すごい高校生 2 講演の部 演題：「志を高く、栗原に生きる」 講師：大場製作所 代表取締役 大場 俊孝</td> </tr> </tbody> </table>					期 日	会議・発表会	内容	5月23日（木） ～ 2月13日（木）	第1回～12回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成	12月12日（木） 13：30～16：00	小・中・高交流発表会 (栗原文化会館)	1 発表の部 神楽「鶏舞」 人の生き方を見つめて 未来を築く職場体験学習 中学校の先輩に学ぶ 高校生ティチャーによるサマースクール すごい高校生 2 講演の部 演題：「志を高く、栗原に生きる」 講師：大場製作所 代表取締役 大場 俊孝
期 日	会議・発表会	内容											
5月23日（木） ～ 2月13日（木）	第1回～12回 連絡協議会	・実施計画の検討 ・交流発表会の企画立案 ・報告書の作成											
12月12日（木） 13：30～16：00	小・中・高交流発表会 (栗原文化会館)	1 発表の部 神楽「鶏舞」 人の生き方を見つめて 未来を築く職場体験学習 中学校の先輩に学ぶ 高校生ティチャーによるサマースクール すごい高校生 2 講演の部 演題：「志を高く、栗原に生きる」 講師：大場製作所 代表取締役 大場 俊孝											
評 価													
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。												
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針													
これまで、県の研究指定として実施した地区についても、「継続」していくという本教育の趣旨を重視し、市として支援をしていく必要がある。		➡	これまで実施してきた学校へ、発表会会場の提供などの支援を行う。また、研究成果などを各学校で共有できるような仕組みを、今後検討していく。										
5 学識経験者の意見													
築館中学校区では、多くの取り組みが見られた。この成果を栗原市全域に広めていくことが肝要である。現在にはない職に就く児童・生徒が出てくることも予想され、栗原市、宮城県、日本の将来像を児童・生徒と考えることを含めた活動としていただきたい。													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)																																
	具体的施策	社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進		担当課 学校教育課																																
1 目的																																				
<p>J E Tプログラム(注1)により招致したA L T(注2)を市内全中学校へ配置し、英語教育を行うとともに、小学校低学年から英語に親しませるため、ノンJ E T(注3)のA L Tを配置し、外国の文化や伝統に対する理解とコミュニケーション能力の素地を養う外国語活動の充実を図る。</p> <p>(注1) J E Tプログラム…国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業 (注2) A L T…外国語指導助手(英語や英語活動の授業で日本人教師を補助する外国人教師) (注3) ノンJ E T…国が行っているJ E Tプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託のこと</p>																																				
2 具体的事業																																				
施策を構成する事業																																				
16「国際田園都市づくり英語教育導入事業」																																				
事業概要																																				
<p>小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ノンJ E TのA L T 4人と中学校に配置している4人のA L Tを活用し、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。</p>																																				
3 平成25年度の取り組みと自己評価																																				
取り組みと成果																																				
<p>小学校英語活動については、ノンJ E TのA L T 4人と中学校に配置しているJ E TプログラムのA L T 4人を活用し、市内全小学校の3・4年生は年間15時間程度、5・6年生については年間35時間の英語活動を実施した。夏季休業中に、小学校3年生以上を対象に日常生活を英語だけで過ごす「英語でチャレンジ」を行った。また、留学生との交流事業は、4小学校で実施した。研修会では、A L Tとのかかわり方や効果的な児童への指示・ほめ方などを学ぶことができた。</p>																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>対象・学年</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語でチャレンジ</td> <td>8月1日(木)～2日(金)</td> <td>この花さくや姫プラザ</td> <td>3～6年</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">宮城教育大学の留学生との交流事業</td> <td rowspan="2">11月27日(水)</td> <td>花山小学校</td> <td>1～6年</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>鶯沢小学校</td> <td>4～6年</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>11月29日(金)</td> <td>瀬峰小学校</td> <td>1～6年</td> <td>263人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>志波姫小学校</td> <td>4年</td> <td>58人</td> </tr> <tr> <td>外国語担当者研修会</td> <td>3月6日(木)</td> <td>栗原市金成庁舎</td> <td>小学校教員</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数	英語でチャレンジ	8月1日(木)～2日(金)	この花さくや姫プラザ	3～6年	57人	宮城教育大学の留学生との交流事業	11月27日(水)	花山小学校	1～6年	22人	鶯沢小学校	4～6年	72人	11月29日(金)	瀬峰小学校	1～6年	263人			志波姫小学校	4年	58人	外国語担当者研修会	3月6日(木)	栗原市金成庁舎	小学校教員	9人
事業名	期日	会場	対象・学年	参加人数																																
英語でチャレンジ	8月1日(木)～2日(金)	この花さくや姫プラザ	3～6年	57人																																
宮城教育大学の留学生との交流事業	11月27日(水)	花山小学校	1～6年	22人																																
		鶯沢小学校	4～6年	72人																																
	11月29日(金)	瀬峰小学校	1～6年	263人																																
		志波姫小学校	4年	58人																																
外国語担当者研修会	3月6日(木)	栗原市金成庁舎	小学校教員	9人																																
評価																																				
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">B</td> <td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</td> </tr> <tr> <td>B 概ね計画どおり目標が達成された。</td> </tr> <tr> <td>C 課題があり、改善を要する。</td> </tr> </table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。	B 概ね計画どおり目標が達成された。	C 課題があり、改善を要する。																												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																																			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。																																			
	C 課題があり、改善を要する。																																			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																																				
<p>「英語でチャレンジ」の申込者が多くなってきており、実施方法や内容を工夫・改善していく。 → 「英語でチャレンジ」の内容の見直しとともに、学年に応じた事業の検討を行っていく。</p>																																				
5 学識経験者の意見																																				
<p>A L Tや留学生を活用した事業、A L T活用の方法に係る教員の研修会などの取り組みがなされている。「英語でチャレンジ」の申し込みが増加したことは、保護者・市民に事業の理解が浸透した証拠である。青空大使派遣事業など、栗原市独自の英語学習の体系を検討すべきである。</p>																																				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)												
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課												
1 目的																
基礎的・基本的な学習内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の改善及び研修、また、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。																
2 具体的事業																
施策を構成する事業																
17「初任者研修」「栗原市教育研究協議会への支援」																
事業概要																
<p>栗原市教育委員会として新任教職員等を対象として、初任者研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに、栗原市の教育方針並びに市内の諸施設・史跡等に関する理解を深め、教員としての資質の向上を図る。</p> <p>栗原市の教育振興と会員の資質向上を図ることを目的とした「栗原市教育研究協議会」に対し、活動支援を行う。</p>																
3 平成25年度の取り組みと自己評価																
取り組みと成果																
5月10日(金)と8月9日(金)に研修会を実施した。 栗原市の教員としての帰属意識が高まり、職責への自覚を促すこともできた。																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>初任者研修</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市町村教育委員会研修Ⅰ (栗原市転入職員研修)</td> <td>5月10日(金)</td> <td>初任者：1名 転入者：6名</td> <td>市内の諸施設・史跡等の見学 (山王ロマン館・寒湯番所跡等)</td> </tr> <tr> <td>市町村教育委員会研修Ⅱ</td> <td>8月9日(金)</td> <td>初任者：1名 市費教員：7名</td> <td>実践的指導力の育成のための講和等 「新任教員に期待する」</td> </tr> </tbody> </table>					初任者研修	開催日	参加人数	事業内容	市町村教育委員会研修Ⅰ (栗原市転入職員研修)	5月10日(金)	初任者：1名 転入者：6名	市内の諸施設・史跡等の見学 (山王ロマン館・寒湯番所跡等)	市町村教育委員会研修Ⅱ	8月9日(金)	初任者：1名 市費教員：7名	実践的指導力の育成のための講和等 「新任教員に期待する」
初任者研修	開催日	参加人数	事業内容													
市町村教育委員会研修Ⅰ (栗原市転入職員研修)	5月10日(金)	初任者：1名 転入者：6名	市内の諸施設・史跡等の見学 (山王ロマン館・寒湯番所跡等)													
市町村教育委員会研修Ⅱ	8月9日(金)	初任者：1名 市費教員：7名	実践的指導力の育成のための講和等 「新任教員に期待する」													
「栗原市教育研究協議会」に対し活動のための補助金を交付した。栗原市教育研究協議会では、13の研究会に分かれて、自主的、創造的な研究活動を行い、教職員の資質向上を図った。																
評価																
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>															
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																
初任者研修だけでなく、教職員研修の在り方全体を見直していく必要がある。		➡	平成26年度開設の教育研究センターを活用して、職務別研修会を開催するなど、研修内容を充実させていく。													
5 学識経験者の意見																
法定研修である初任者研修や栗原市教育研究協議会への補助の他に、市が独自に研究指定校に補助金を出して公開研究会を推進するなど、積極的に優れた授業の創出のための努力を払って欲しい。優れた授業を観察することは初任者にもベテランにも必要不可欠な研修活動である。																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
基礎的・基本的な学習内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の改善及び研修、また、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
18「学力向上講演会」				
事業概要				
児童生徒の学力向上を図る事業の一環として、教職員の資質と能力を高めるため「学府くりはら」学力向上講演会を実施する。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
平成25年度は、下記の日程及び講演内容で実施する予定であったが、台風接近に伴い、講演会の開催を中止とした。 なお、市立幼稚園、小・中学校の教職員へは、講師から配布された資料を送付した。				
<p>開催日時 平成25年10月16日(水)午後2時</p> <p>会場 栗原市若柳総合文化センター</p> <p>対象者 市立幼稚園、小・中学校の全教職員</p> <p>講師 宮城教育大学国際理解教育研究センター センター長 教授 小金澤孝昭先生</p> <p>講演内容 「地域を調べ、地域に学び、地域を創る教育とは」 ～持続発展教育の学ぶ力～</p>				
評価				
<p>—</p> <p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>				
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
<p>学力向上講演会が開催できない場合の対応を事前に検討しておく必要がある。 ➡ 実施できない場合の対応として、予備日を設定するなど、工夫をしていく。</p>				
5 学識経験者の意見				
事業中止により意見なし				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む
	具体的施策	心の教育の充実を図るための道徳教育及び生徒指導の推進		担当課 学校教育課

1 目的

志教育（注1）を充実させ、一人ひとりに夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度を育成する。また、学校不適応児童生徒個々の状態に応じた指導を行うことにより、学習意欲、自立心、社会性等を育て、学校生活への復帰を促す。

（注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育

2 具体的事業

施策を構成する事業

19「教育相談員」「適応指導教室事業」

事業概要

学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができるよう体制整備をする。

また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに登校に向けての支援を行う。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

教育相談員や在学青少年指導員の活動を通して、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握し、適切な支援体制の確立に努めることができた。また、適応指導教室には、6中学校から11人の生徒が通級（体験2名を含む）し、在学青少年指導員が指導にあたり、登校回数を増やすことができた。

事業名	対応日時及び時間	対応状況					
教育相談	毎週月・水・金 8:30~17:15	来庁相談：4件、電話相談：6件、学校訪問相談：55件					
けやき教室	毎週火～金、 9:00~15:30	開所日数	166日				
		通所人数	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	
			正式通所	0人	4人	5人	9人
			体験通所	1人	1人	0人	2人
合計	1人	5人	5人	11人			

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。

B 概ね計画どおり目標が達成された。

C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

適応指導教室の通級生徒は、部分登校はできるようになったものの、学校復帰にはいたらなかった。



今後も相談活動の充実を図り、適応指導教室での個に応じ認め合う環境の中で、学校と保護者との連携を大切にし、学校復帰に努めていく。

5 学識経験者の意見

適応指導教室の通級生徒について、学校復帰にはいたらずとも、部分登校できるようになったことなどは大きな成果であると評価できる。目先の学校復帰数の増加を目指すよりも、「いつでも相談支援ができる体制」と「個に応じ認め合う環境」の整備を今後も着実に進められたい。

施策体系	基本針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課
1 目的				
いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する体制を整備する。また、警察や関係機関等との連携を図り、情報を共有して、いじめ問題に対処していく。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
20「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」				
事業概要				
いじめ等の悩みを抱える児童生徒への適切な対応を行うため、「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の相談員を派遣して、別室に登校している児童生徒に学習支援等を行う。また、不登校傾向の児童生徒や家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向けて、その方向性を探っていく。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>「問題を抱える子ども等の自立支援事業」については、2名の相談員が2校6名の児童生徒にかかわり、教室復帰や高校進学に向けての学習支援を行った。</p> <p>「スクールソーシャルワーカー活用事業」については、1名のスクールソーシャルワーカーが3校4名の児童生徒と家庭にかかわり、学校復帰に向けて学校と連携しながら支援を行った。また、ケース会議等を通して、民生委員や子育て支援課等との連携・情報共有を行い、保護者や児童生徒の思いを受け入れつつ、方向性を示して自立に向けて支援した。</p> <p>相談員やスクールソーシャルワーカーが、学校や家庭、関係機関と連携できたことにより、高校への進学を果たすことができた生徒もいた。</p>				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。			
	C 課題があり、改善を要する。			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
児童生徒が抱えるの悩みを把握するために、更なる工夫が必要である。		➡	学校でのアンケート調査の内容や、教育委員会での相談体制について見直しを図り、児童の悩み等の把握や問題解決に努める。	
5 学識経験者の意見				
悩みを抱える児童生徒や家庭への適切な支援に果たす専門家の役割は重要であり、意義ある事業である。まだまだ社会的認知度が低いともいわれるスクールソーシャルワーカーについては、その有効な活用のあり方について、情報発信を行うことも求められるのではないかと。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課
1 目的				
いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する体制を整備する。また、警察や関係機関等との連携を図り、情報を共有して、いじめ問題に対処していく。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
21 「いじめ防止対策事業」				
事業概要				
いじめを許さない学校づくりを推進するために、関係機関と連携しながら組織として取り組むための方策を探る。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
9月に施行された「いじめ防止対策推進法」に基づき、いじめを許さない学校づくりを推進するため、すべての学校を対象に「いじめ防止基本方針に係る説明会」を開催した。そして、市全体で、いじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、3月に「栗原市いじめ防止基本方針」を策定し、市のHP等で公表した。同時に、すべての小・中学校において、いじめ防止のための取組、早期発見、早期対応の在り方、教育相談体制、校内研修に係る内容等について「学校いじめ防止基本方針」として策定した。				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。			
	C 課題があり、改善を要する。			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
栗原市及び学校の「いじめ防止基本方針」に基づいた組織を早急に立ち上げる必要がある。		➡	「いじめ防止対策連絡協議会」など、組織の条例を制定し、それぞれの組織の目的に応じて関係機関と連携を図る。	
5 学識経験者の意見				
「いじめを許さない」などのスローガンのみが先行し取り組みが形骸化することのないよう、今後も市の基本方針に基づき、「一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくり」や「互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくり」などの「学校づくり」を着実に進められたい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る															
	具体的施策	健やかな体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課															
1 目的																			
社会環境の変化に伴い子どもたちを取り巻く生活環境も変化する中で、子どもたちの体力や健康に関する問題が深刻化している。こうしたことから、子どもの発達段階に応じた食に関する正しい知識や望ましい生活習慣を身につけるための指導、食育の生きた教材となる学校給食の充実、また、体力の向上と障害スポーツの基礎を培う体育指導の推進等により、将来にわたって健康で活力ある生活を送ることができる児童生徒の育成を目指す。																			
2 具体的事業																			
施策を構成する事業																			
22「学校訪問指導事業」																			
事業概要																			
学校給食及び施設整備の充実・強化を図り、健やかな体を培うため、学校栄養士や地域の人材と連携した食育の推進、栄養指導及び地産地消の推進を行う。また、基本的生活習慣の形成を図るため、「早ね、早起き、朝ごはん」運動を奨励する。																			
3 平成25年度の取り組みと自己評価																			
取り組みと成果																			
学校給食センターの栄養士等が市内の小・中学校を訪問し、各学年の発達段階に応じたテーマを設けて、食に関する指導等を行い、生きていくうえで基本となる食事や生活習慣の大切さを促した。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>給食センター名</th> <th>実施回数</th> <th>主な指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>南部学校給食センター</td> <td>37回</td> <td>給食のひみつについて 骨を丈夫にしよう</td> </tr> <tr> <td>若柳学校給食センター</td> <td>15回</td> <td>スポーツと栄養について バランスのとれた食事について</td> </tr> <tr> <td>一迫学校給食センター</td> <td>30回</td> <td>おやつを取り方について 水分補給について</td> </tr> <tr> <td>鶯沢学校給食センター</td> <td>8回</td> <td>味噌の栄養について 衛生管理について</td> </tr> </tbody> </table>					給食センター名	実施回数	主な指導内容	南部学校給食センター	37回	給食のひみつについて 骨を丈夫にしよう	若柳学校給食センター	15回	スポーツと栄養について バランスのとれた食事について	一迫学校給食センター	30回	おやつを取り方について 水分補給について	鶯沢学校給食センター	8回	味噌の栄養について 衛生管理について
給食センター名	実施回数	主な指導内容																	
南部学校給食センター	37回	給食のひみつについて 骨を丈夫にしよう																	
若柳学校給食センター	15回	スポーツと栄養について バランスのとれた食事について																	
一迫学校給食センター	30回	おやつを取り方について 水分補給について																	
鶯沢学校給食センター	8回	味噌の栄養について 衛生管理について																	
評価																			
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																		
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																			
食の指導だけではなく、健康管理に向けた取組も必要である。		➡	肥満及びやせに該当する者の把握を行い、健康管理の助言・指導を行う																
5 学識経験者の意見																			
給食センター栄養士が学校を訪問して食に関する指導を行った。食や健康管理の問題は、栄養士の訪問指導を各学校での保健、家庭科、理科などの授業と連動させることによって生きた知識となってくる。このような教員間の連携が図れるよう、検討されたい。																			

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る
	具体的施策	健やかな体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

社会環境の変化に伴い子どもたちを取り巻く生活環境も変化する中で、子どもたちの体力や健康に関する問題が深刻化している。こうしたことから、子どもの発達段階に応じ食に関する正しい知識や望ましい生活習慣を身につけるための指導、食育の生きた教材となる学校給食の充実、また、体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進等により、将来にわたって健康で活力ある生活を送ることができる児童生徒の育成を目指す。

2 具体的事業

施策を構成する事業

23「夏季休業中プール開放事業」

事業概要

体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進を図るため、夏季休業中の子どもたちの健康と体力の増進のため、小学校及び中学校のプールを開放する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

プール監視員等を任用し、夏季休業中プール開放を行い、基礎的体力の向上、水泳の奨励につながった。また、再編した、若柳小学校、栗駒小学校、一迫小学校及び栗駒中学校においては、夏季休業中もスクールバスの運行を行い、プールの利用促進に努めた。

プール補助員数

	監視員	監視補助員	実施校数
小学校	5人	54人	18校全校
中学校	8人	18人	8校中7校工事等のため、若柳中実施せず)

プール開放日数

	21日	20日	17日
小学校	12校	1校	5校
中学校		7校	1校

プール開放期間

	開放期間		実施校		開放期間		実施校
	7月22日～8月23日	7月22日～8月22日			7月22日～8月23日	7月22日～8月20日	
小学校	7月22日～8月23日		5校	中学校	7月22日～8月23日		2校
	7月22日～8月22日		8校		7月22日～8月22日		4校
	7月22日～8月20日		5校		7月22日～8月20日		1校

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

体力向上に繋げるために、プール開放期間内の利用状況を把握する必要がある。



各学校にプール利用状況の調査を行い、次年度以降の利用促進を検討する。

5 学識経験者の意見

重大な事故が惹起しやすい事業でもあり、責任の所在の明確化とプール監視に預かる人間の研修、さらに児童・生徒のみならずプール監視員の安全を確保する方策や施設設備の充実などが必要である。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進		担当課 学校教育課

1 目的

危険を予知し回避する能力を高めるための防災教育を推進するとともに、防災の基礎となる基礎的な知識に関する指導を充実させる。

2 具体的事業

施策を構成する事業

24「防災主任研修会」

事業概要

児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との強化のため、すべての小・中学校に防災マニュアルの見直しを行わせ、それに基づいて児童生徒の安全確保を図る危機管理体制を確立する。また、関係機関との連携を図り、自らの命を守るための防災教育を充実させるために、防災主任を対象として研修会を実施する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

県教委主催の研修会3回（うち1回は市教委共催）に加え、栗原市教育委員会として2回の研修会を実施した。

また、研修の中で、地域や関係機関と連携することが課題となった。先進的な取り組みをしている築館中学校や宮野小学校の事例を基にして、防災マニュアルや防災教育・避難訓練等の見直しを促した。

主催・共催	事業名	開催日	内容	参加人数
栗原市教育委員会	第1回栗原市防災主任研修会	平成25年7月17日（水）	講話「築館中学校の防災教育の取組」 研修「栗原市地域防災計画の見直し概要」	32名
宮城県教育委員会 （栗原市教委）	防災主任総合研修会地区別研修	平成25年11月29日（金）	講話「地域との連携による学校防災体制づくり」 研究協議「地域連携を視野に入れた学校防災体制づくり」	36名
栗原市教育委員会	第2回栗原市防災主任研修会	平成26年1月15日（水）	講話「震災後2年を経た子どもへの対応」 研究協議「防災教育等の実践事例について」	29名

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

各校における防災教育の実践を紹介し合うだけでなく、各校の良さを自校の計画に取り入れることで、防災教育を充実させていく必要がある。



研修会は、主幹教諭（防災担当）を中心として、ワークショップ形式を取り入れ、より向上的・実践的な話し合いになるよう工夫していく。

5 学識経験者の意見

自然災害は準備よく迎えるべきものである。東日本大震災では、ほんの少し離れた場所で被害が大きく異なることが明らかとなった。それぞれの学校に準備された防災マニュアルを、地域の実情に合わせて充実していくことも必要である。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。

2 具体的事業

施策を構成する事業

25「家庭教育学級」

事業概要

幼児、児童の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校において行う家庭教育学級の講師派遣の支援を行う。

家庭教育学級講師リストを作成提供し、開催にあたって指導助言を行い、内容の充実を図る。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

前年度、保育所入所児童保護者からの要望があり、今年度は保育所、幼稚園、小学生の保護者を対象に家庭教育学級を実施した。

家庭教育学級開催実績

	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	開催回数	保育所		21回	保育所		25回	保育所	2回
	幼稚園	14回	幼稚園		16回	幼稚園		10回	
	小学校	7回	小学校		9回	小学校		7回	
参加者数	保育所		1,655人	保育所		2,078人	保育所	243人	1,671人
	幼稚園	876人		幼稚園	1,245人		幼稚園	1,025人	
	小学校	779人		小学校	833人		小学校	403人	
助成金額	195,000 円			230,000 円			125,000 円		

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

開催希望校が少ない。



これまで助成対象外であった中学校を対象に含めるとともに、未開催の学校等でも家庭教育学級を開催するようよう、実施例を作成し提供する。

5 学識経験者の意見

子育て期にある保護者を対象として学習機会を提供することは重要であり、新たに保育所の保護者も対象に含めて実施された点は高く評価したい。ただし、開催希望校が少なかったことは残念である。講習の内容や形態も含めて、リストの改善・充実を図る必要があるのではないか。

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (1) 幼児期(芽生え期)		担当課 社会教育課
1 目的				
幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
26「サポーター養成」				
事業概要				
関係機関と連携した子育て支援の推進を図るため、講座や研修会を開催し、子育て支援人材の養成を行う。				
3 平成25年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
家庭教育サポーター学習会を開催し、関係機関からの情報提供の機会を持った。また、養成講座を終了した家庭教育サポートチームで数回の活動を行うことができた。				
家庭教育サポーター学習会参加者数				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
参加人数	14人	21人	24人	
※家庭教育サポーター学習会・・・サポーターの資質の向上と活動内容等を学習する。				
子育てサポーター養成講座修了者数				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
参加人数	22人	17人	4人	
※子育てサポーター・・・子育てやしつけに関する悩みをもつ親の相談にのったり、アドバイスをしたりするボランティア。				
※平成10年度から平成26年3月末までの養成講座修了者数 66人				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針				
子育てサポーターの認知度が低いため、活動機会が少ない。		➡	サポーター活動のPR方法を検討するとともに、子育て支援課と連携をしていく。また、家庭教育学級時にサポーターとしての活用を図る。	
5 学識経験者の意見				
66名ものサポーターという有為な人材資源を十分に活用できるよう、子育て支援課との連携やPRの充実に取り組んでほしい。				

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (1) 幼児期（芽生え期）		担当課 社会教育課

1 目的

幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。

2 具体的事業

施策を構成する事業

27「ブックスタート事業」

事業概要

乳幼児健診時に、乳幼児に本を贈り、本の読み聞かせを行うことによる親子のふれあいや読書の大切さを伝える。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

子育て中の保護者・乳児に絵本を渡すことにより、絵本を介して親子のふれあいのきっかけづくりを支援するとともに、図書館のPRにもなり図書館の利用促進につながった。
また、フォローアップ事業として赤ちゃん向けのおはなし会を実施した。

ブックスタート事業

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
開催回数	35 回	24 回	24 回
配付数	470 人	438 人	424 人

赤ちゃん向けおはなし会

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
開催回数	10 回	12 回	6 回
参加人数	174 人	247 人	130 人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

絵本を手渡した後のフォローアップが、おはなし会だけなので不十分と考える。



フォローアップ事業の充実を図る。また、赤ちゃん向けおはなし会については、開催回数を増やす工夫をする。

5 学識経験者の意見

フォローアップ事業としての赤ちゃん向けのおはなし会について、回数に加えて、内容の充実も図ってほしい。絵本について、保護者のニーズを発掘したり、保護者側からの情報発信を引き出すような取り組みも考えられるのではないかと。

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (2) 青少年期 (成長期)		担当課 社会教育課

1 目的
 青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業
 施策を構成する事業
28「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」

事業概要
 地域少年団体の育成と活動の支援を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を図る。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動へ青少年の参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価
 取り組みと成果

ジュニア・リーダーを募集・育成し、子ども会活動等への支援などを行った。指導者としての学習を行うことにより、次世代を担うリーダーとして資質向上が図られた。活動地区の場を広げることは難しかった。

ジュニア・リーダー登録地区、人数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考
地区	7 地区	7 地区	7 地区	全10地区
人数	62 人	58 人	67 人	

認定状況

	初級	中級	上級	合計
人数	24人	15人	6人	45人

事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署
JL初級研修会	10/13(日)～10/14(月)	中学1年～高校3年JL	18人	社会教育課
JL派遣事業	10/20(火)、12/15(日)、3/9(日)	栗駒・鶯沢地区	100人	栗駒・鶯沢教育センター
築館JL人形劇祭り	12/23(月)	築館・志波姫地区市民	90人	築館・志波姫教育センター
JL技術研修・交流会	2/15(土)	市内JL	14人	社会教育課
JL新人研修会/分散会	3/16(日)	栗駒・鶯沢地区JL	10人	栗駒・鶯沢教育センター

※JL=ジュニア・リーダー

評価
B
 A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
 B 概ね計画どおり目標が達成された。
 C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針
 ジュニアリーダーの登録者数が減ってきている。また、活動の場も少なくなっている。 → 子ども会育成会やPTAの会議等の場で、ジュニア・リーダーの活動PRを行う。また、学校等へのジュニア・リーダー募集のポスター掲示やチラシ配付を行う。

5 学識経験者の意見
 ジュニア・リーダーの登録者数減に加えて、活動の場が少なくなっていることが、前年度から引き続き課題として挙げられている。この点について、ジュニア・リーダー自身がどのような活動をしたと考えているのかを引き出し、新たな主体的な活動につなげていくことはできないだろうか。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (2) 青少年期 (成長期)		担当課 社会教育課

1 目的
 青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業
 施策を構成する事業
29「少年体験教室・青少年育成団体との連携・育成者の支援」

事業概要
 青少年教育の推進を図るため、教育センター、図書館等において青少年対象の事業を実施する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果
 各教育センター、各施設で青少年対象事業を開催した。
 各種事業を開催することにより、青少年の成長過程での情操教育の一端となった。
 さまざまな遊びや体験活動・人とのかかわりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養うことが出来た。

青少年対象の事業 (※主な事業を抜粋)

事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署
少年体験教室事業	8/8 (木) ~1/26 (日) (4回)	築峰・志波姫地区小学生	16人	築峰・志波姫教育センター
子ども司書養成講座	7/26 (金) ~8/23 (金) (6回)	市内小学校4~6年	30人	図書館
あきる野市・栗原市友好親善交流事業	7/31 (水) ~8/2 (金)	部活動交流：瀬峰中、生徒会交流：市内中学校	50人	社会教育課
せみね合宿通学 (3泊4日)	10/1 (火) ~4 (金)	瀬峰小学校4~6年	9人	瀬峰・高清水教育センター
栗駒子どもまつり	11/10(日)	市内小学生	300人	栗駒・鶯沢教育センター
小・中学生新春書初め	1/7 (火)	一迫・花山地区小・中学生	43人	一迫・花山教育センター
わかやなぎこどもJOINT FES	1/19 (日)	若柳地区市民	250人	若柳・金成教育センター

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

事業内容がマンネリ化してきている。



魅力ある活動プログラムを開発するため、多様なニーズへの柔軟な対応や、地域の指導者の発掘とジュニア・リーダーの活用を図る。

5 学識経験者の意見

事業内容がマンネリ化してきているとのことであるが、ジュニア・リーダー等の主体的な取り組みを引き出し、活性化を図っていただきたい。

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																								
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (3) 成年期 (成熟期)		担当課 社会教育課																																								
1 目的																																												
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。																																												
2 具体的事業																																												
施策を構成する事業																																												
30「講演会・シニアセミナー・レディースカレッジ」																																												
事業概要																																												
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。																																												
3 平成25年度の取り組みと自己評価																																												
取り組みと成果																																												
ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センター、各施設ごとに実施した。各種事業を実施することにより、生涯各期に要請された学習機会について提供した。																																												
主な事業を抜粋																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日・期間</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>担当部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者学習会 (地区開催)</td> <td>6/24 (月) ~ 3/10 (月)</td> <td>一迫・花山地区市民 (60歳以上)</td> <td>368人</td> <td>一迫・花山教育センター</td> </tr> <tr> <td>女性教室 (全4回)</td> <td>8/1 (木) ~ 12/6 (金)</td> <td>市内の女性</td> <td>97人</td> <td>若柳・金成教育センター</td> </tr> <tr> <td>心を清める写経講座 (全2回)</td> <td>10/18(金)~10/19(土)</td> <td>市民一般</td> <td>20人</td> <td>栗駒・鶯沢教育センター</td> </tr> <tr> <td>自作視聴覚教材コンクール</td> <td>2/14 (金)</td> <td>市民一般</td> <td>17人</td> <td>視聴覚センター</td> </tr> <tr> <td>大人も楽しむおはなし会</td> <td>3/2 (日)</td> <td>市民一般</td> <td>20人</td> <td>図書館</td> </tr> <tr> <td>せみねりフレッシュカレッジ</td> <td>5月~3月</td> <td>瀬峰地区市民 (60歳以上)</td> <td>83人</td> <td>瀬峰・高清水教育センター</td> </tr> <tr> <td>女性講座「レディースカレッジ」 (全4回)</td> <td>6月~11月</td> <td>築館・志波姫地区市民 (成人女性)</td> <td>69人</td> <td>築館・志波姫教育センター</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署	高齢者学習会 (地区開催)	6/24 (月) ~ 3/10 (月)	一迫・花山地区市民 (60歳以上)	368人	一迫・花山教育センター	女性教室 (全4回)	8/1 (木) ~ 12/6 (金)	市内の女性	97人	若柳・金成教育センター	心を清める写経講座 (全2回)	10/18(金)~10/19(土)	市民一般	20人	栗駒・鶯沢教育センター	自作視聴覚教材コンクール	2/14 (金)	市民一般	17人	視聴覚センター	大人も楽しむおはなし会	3/2 (日)	市民一般	20人	図書館	せみねりフレッシュカレッジ	5月~3月	瀬峰地区市民 (60歳以上)	83人	瀬峰・高清水教育センター	女性講座「レディースカレッジ」 (全4回)	6月~11月	築館・志波姫地区市民 (成人女性)	69人	築館・志波姫教育センター
事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署																																								
高齢者学習会 (地区開催)	6/24 (月) ~ 3/10 (月)	一迫・花山地区市民 (60歳以上)	368人	一迫・花山教育センター																																								
女性教室 (全4回)	8/1 (木) ~ 12/6 (金)	市内の女性	97人	若柳・金成教育センター																																								
心を清める写経講座 (全2回)	10/18(金)~10/19(土)	市民一般	20人	栗駒・鶯沢教育センター																																								
自作視聴覚教材コンクール	2/14 (金)	市民一般	17人	視聴覚センター																																								
大人も楽しむおはなし会	3/2 (日)	市民一般	20人	図書館																																								
せみねりフレッシュカレッジ	5月~3月	瀬峰地区市民 (60歳以上)	83人	瀬峰・高清水教育センター																																								
女性講座「レディースカレッジ」 (全4回)	6月~11月	築館・志波姫地区市民 (成人女性)	69人	築館・志波姫教育センター																																								
評価																																												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																																											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。																																											
	C 課題があり、改善を要する。																																											
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																																												
ライフステージごとの事業を実施しているが、世代を超えた内容の事業実施の検討が必要である。		➡	参加者からのアンケート等を実施し、各地区での実情に応じた学習機会の提供を図る																																									
5 学識経験者の意見																																												
世代ごとの学習機会の提供に加えて、世代同士の交流を含めた相互学習の機会を設けることが前年度から引き続き課題として挙げられている。この点について、利用者のニーズを探る取り組みはできないだろうか。																																												

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援		担当課 社会教育課

1 目的
市民がいつでも、どこでも、だれでも生涯学習が展開できるように社会教育施設及び社会教育環境を整備し、活動の充実を図っていく。また地域課題解決に向けた学習に取り組み、活動の自立化を促す。地域活動に参画する地域のリーダーの育成を図るため、各種社会教育事業を展開するとともに、地区コミュニティ組織等との連携を図る。

2 具体的事業
施策を構成する事業

31「学習まつり・芸能祭・文化祭」

事業概要
社会教育関係団体等との連携により講座等を開催する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価
取り組みと成果

社会教育団体が主催する事業と共催開催し、市民団体が主となり自主運営が図れるよう、活動支援に努めた。

事業名	期日・期間	対象	参加人数	主催・共催者
若柳初夏の展示会	6/8(土)～6/9(日)	一般市民	200人	若柳芸術協会
少年の主張栗原大会	7/12(金)	中学生	230人	市民会議
栗原市民文化祭inしわひめ	12/8(日)	志波姫地区市民	300人	志波姫地区芸術文化協会
若柳文化祭・芸術祭	11/2(土)～11/3(日) 12/1(日)	一般市民	900人	若柳芸術協会
瀬峰文化祭	11/3(日)～11/4(月)	瀬峰地区市民	400人	瀬峰文化協会
小学生絵画・書道作品展 保育所児・園児たちの作品展	11/9(土)～11/10(日)	金成地区小学生 保育所児・幼稚園児	688人	金成芸術文化協会 市民会議金成支部
築館地区文化芸術祭	11/16(土)～17(日)	築館地区市民	800人	築館文化芸術協会
高清水生涯学習まつり・芸能祭	11/23(土)～11/24(日)	高清水地区市民	400人	高清水生涯学習まつり実行委員会
鶯沢芸能発表会	11/24(日)	市民一般	300人	鶯沢文化協会
築館各種女性団体「女性の集い」	1/31(金)	築館各種女性団体(10団体)	150人	築館各種女性団体連絡協議会
青少年健全育成のつどい	2/26(水)	築館地区市民	23人	市民会議築館地区会
モデル子ども会実践発表会	2/28(金)	栗駒地区内子ども会	30人	市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会

評価
B
A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
B 概ね計画どおり目標が達成された。
C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針
社会教育団体の自主的・自発的活動への支援が必要である。 → 団体の魅力を訴える活動や、新たな時代のニーズにあった事業展開等を支援・助言していく。

5 学識経験者の意見
市民団体が主となり自主的運営が図れるよう努められている点を高く評価したい。今後も適切な支援・助言を行っていただきたい。

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援		担当課 社会教育課

1 目的
市民がいつでも、どこでも、だれでも生涯学習が展開できるように社会教育施設及び社会教育環境を整備し、活動の充実を図っていく。また地域課題解決に向けた学習に取り組み、さらに、活動の自立化を促す。地域活動に参画する地域のリーダーの育成を図るため、各種社会教育事業を展開するとともに、地区コミュニティ組織等との連携を図る。

2 具体的事業
施策を構成する事業

32「協働教育コーディネーター研修会」「学校支援ボランティア実践発表会」

事業概要
地域・家庭・学校が協働して地域の子どもたちを地域で育てる仕組みづくりを推進するため、学習指導者や、ボランティア育成の支援を行う。

3 平成25年度の取り組みと自己評価
取り組みと成果

地域の人材の掘り起しに繋げるべく、地域、学校、家庭を繋ぐ地域コーディネーター向けの研修会を実施。ボランティアの実践発表会を行い、活動状況を市民に周知する場を作った。各教育センター職員も研修会等に参加し、協働教育の理解を深めた。

事業名	期日	対象	参加人数
協働教育推進委員会	5/14 (水) 9/4 (水) 2/27 (木)	協働教育推進委員	20人
協働教育コーディネーター研修会	5/23 (木)	地域コーディネーター 学校コーディネーター 担当教諭、教育センター職員	52人
学校支援ボランティア事業 (推進指定校)	年間	栗原西中学校	延べ 27人
		築館小学校	延べ 330人
		鶯沢小学校	延べ 28人
		高清水小学校	延べ 125人
学校支援ボランティア事業実践発表会	1/31 (金)	市民一般	延べ 151人 58人

評価
B
A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
B 概ね計画どおり目標が達成された。
C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針
研修会、実践発表会への一般市民参加数が少なかったことから、開催方法等を検討する必要がある。 → 教育センターだよりや学校だよりを活用し、活動内容を紹介し、広く市民に理解してもらう。

5 学識経験者の意見
一般市民参加数の増加に向けて、周知や開催方法の改善を図っていただきたい。

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

33「青空大使派遣事業」

事業概要

市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施し、現地研修として学校訪問、ファームステイ体験、熱帯雨林やグレートバリアリーフの大自然に触れる

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

中学生20人が参加し、国内研修を6回、海外研修を5泊6日で実施した。
 本事業の応募人数は年々増加傾向にある。この事業が市の事業として定着したことともに、これまでの参加団員が、交流の思い出や事業の良さを後輩に直接伝えていることにあると考えられる。
 国内研修では日常会話はもちろんのこと、日本や栗原のことを英語で伝える練習をし、現地学生やホストファミリーと交流を図っているが、「練習したプレゼンの英語が伝わって、本当に嬉しかった」という感想を述べる団員がいる一方で、「なかなか英語が伝わらず、とても悔しかった。たくさん勉強して将来に必ず活かしたい」と失敗を克服し自分の将来に向けた目標を見出す団員もいるなど、今後、長期的な成果もアンケート等で明らかにする必要がある。

研修内容

	日時	開催場所	研修内容
結団式 第1回	6/7(金) (保護者参加)	栗原文化会館	・事業概要説明 ・旅行説明
第2回	6/15(土)	栗原文化会館	・班別研修 ・学校交流時プレゼン準備
第3回	6/29(土)	栗原文化会館	・英会話レッスン他
第4回	7/7(土)	栗原文化会館	・班別研修 ・学校交流時プレゼン紹介文の英文確認、発音練習他
第5回	7/19(金) (保護者参加)	金成総合支所	・ホームステイ体験談講話 ・英会話レッスン他
第6回・解団式	8/11(日)	栗原文化会館	・旅行説明(最終確認、ファームステイ先について) ・プレゼンリハーサル他
			・研修報告

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

研修期間のみの単発事業で終わることなく、その成果を活かす機会の提供等が必要である。



参加団員の体験発表の場や国際交流事業等で活動できる体制を作っていく。

5 学識経験者の意見

前年度の反省を踏まえ、「大使」として、日本・宮城・栗原のことを海外に発信することに努められた点を高く評価したい。参加団員の体験発表の場や国際交流事業等での活動の機会をさらに拡充されたい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	地域に根ざした文化芸術の推進
	具体的施策	文化芸術の推進		担当課 社会教育課

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

34「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ(注1)ほか各種芸術鑑賞会」

(注1)音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。

事業概要

優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることができ、地域文化の創造に努められた。※は新規事業

社会教育課実施事業 (13事業) 参加人数 9,438人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
第76回河北美術展栗原展	5/22～27	2,058人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	11/20	993人
小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	7/3～4	1,784人	美術ワークショップ「アスカオリの変身!カツラ	10/9	68人
仙台フィルマイトウンコンサートin栗原	8/31	514人	ワークショップ「ユラユラ人形を操ろう」	11/20	14人
青少年劇場小公演	9/18～19	590人	けやきステージ2013 佐藤皖山コンサート	12/14	217人
ジャズコロバ栗原2013	10/6	665人	心にきざむ 文化講演会「講師 山崎 武司 氏」	12/21	800人
宮城県巡回小劇場	10/7	935人	音楽アウトリーチ事業「澤敦ホルンコンサート」	2/18～19	253人
※大垣市との俳句交流事業	10/20～21	10人	第7回栗原市写真展	3/8～16	537人

栗原文化会館実施事業 (7事業) 参加人数 3,908人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
宮城水彩展「栗原展」	7/13～20	584人	栗原書道展	10/5～13	318人
栗原市工芸展	8/1～8	419人	栗原市美術展	11/6～14	530人
見てけらいん美術展	9/5～14	553人	森昌子コンサート1,009人・「週末よしもと」お笑いまつり495人	11/24・3/8	1,504人

若柳総合文化センター実施事業 (5事業) 参加人数 2,604人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
親子芸術鑑賞会「赤ざきん&ミニコンサート」	7/5	502人	劇団四季ファミリーミュージカル「桃次郎の冒険」	11/4	522人
ダンスフェスティバル2013	8/25	597人	「ふるさと劇場」～民話とわらべ歌～	3/9	441人
わかやなぎ音楽祭	11/2	542人			

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

市民のニーズの多様化に対応した事業等を
選定する必要がある。



事業への参加者にアンケート調査を行い、市民からの意見を参考に、事業選定し実施する。

5 学識経験者の意見

地域文化の活性化と市民のリフレッシュという二つの意味がある活動である。必ずしもこの二つが連動するとは限らないが、参加者数が少なくても栗原市として育てたい文化については、活動を継続させるべきだと考える。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進										
	具体的施策	文化財の保存・愛護と活用の推進		担当課 文化財保護課										
1 目的														
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。														
2 具体的事業														
施策を構成する事業														
35「埋蔵文化財発掘調査事業」														
事業概要														
埋蔵文化財発掘調査を行い、遺跡の解明、記録保存をする。														
3 平成25年度の取り組みと自己評価														
取り組みと成果														
埋蔵文化財包蔵地における開発行為等に伴い、その事業によって失われてしまう埋蔵文化財の記録保存を主とする事業であり、これらの調査成果を公表することにより、市民の埋蔵文化財に対する理解を得ることができた。また、周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)及び隣接地において道路整備・市設置型合併処理浄化槽等の公共工事や民間の宅地・工場造成、集合住宅、個人住宅等の開発事業に伴い、発掘届(一般)、発掘通知(公共機関)を受理し、県教育委員会の指示のもと、関係課や事業主と「遺跡と開発事業の係わり」について、協議や指導等を行い、工事立会や確認調査及び事前調査を行った。														
単位：件														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
項目														
埋蔵文化財協議		12	17	11	12	14	11	9	10	7	9	5	5	122
発掘届		7	8	11	9	3	4	5	2	7	2	5	3	66
発掘通知		2	1	7	5	3	8	5	6	2	7	1	1	48
工事立会報告		3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
史跡現状変更		0	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5
評価														
B	A	良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。												
	B	概ね計画どおり目標が達成された。												
	C	課題があり、改善を要する。												
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針														
開発に伴う発掘調査に時間を要したため、国庫補助による伊治城跡発掘調査事業を実施することが出来なかった。		➡			開発事業者等と連絡を密にして、計画的かつ効率的に発掘調査を実施する。									
5 学識経験者の意見														
開発によって失われる埋蔵文化財を記録し保管することは、後生への責任である。開発業者のスケジュールを考慮しつつも丁寧な仕事が必要である。														

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進									
	具体的施策	文化財の保存・愛護と活用の推進		担当課 文化財保護課									
1 目的													
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
36「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」													
事業概要													
伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての活動を支援並びに史跡・天然記念物等保存活動に対する支援策として、補助金を交付する。													
3 平成25年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
<p>伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人並びに史跡・天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担を軽減し、伝承活動を支援することができた。</p> <p>補助金の交付状況</p> <table border="0"> <tr> <td>史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金</td> <td>1 団体 3 個人</td> <td>2 7 2 , 0 0 0 円</td> </tr> <tr> <td>無形文化財保存伝承に対する補助金</td> <td>1 個人</td> <td>9 5 , 0 0 0 円</td> </tr> <tr> <td>無形民俗文化財保存団体に対する補助金</td> <td>1 2 団体</td> <td>4 4 5 , 5 5 0 円</td> </tr> </table>					史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金	1 団体 3 個人	2 7 2 , 0 0 0 円	無形文化財保存伝承に対する補助金	1 個人	9 5 , 0 0 0 円	無形民俗文化財保存団体に対する補助金	1 2 団体	4 4 5 , 5 5 0 円
史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金	1 団体 3 個人	2 7 2 , 0 0 0 円											
無形文化財保存伝承に対する補助金	1 個人	9 5 , 0 0 0 円											
無形民俗文化財保存団体に対する補助金	1 2 団体	4 4 5 , 5 5 0 円											
評価													
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>												
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針													
伝統技術や民俗芸能を継承する団体の後継者が不足している。		➡	各団体の実情等の聴き取り調査等により現状を把握し、担い手の育成のために必要かつ効果的な支援を行っていく。										
5 学識経験者の意見													
伝統的な芸能の後継者が見つからない場合、ICTを用いて、画像とともにからだの部分の加速度を計測して、その動きを数値化して保存することもあり得る。検討が必要である。													

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進																								
	具体的施策	文化財の保存・愛護と活用の推進		担当課 文化財保護課																								
1 目的																												
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業																												
37「史跡伊治城跡調査事業」「文化財保護保存事業」																												
事業概要																												
史跡伊治城跡の整備保存のための土地の公有化を行う。また、整備が終了した史跡山王圀遺跡の活用事業を実施する。文化財普及啓発事業としては、既存標柱・説明板の修繕、各種研修会への講師派遣、古文書解説講座の開催、広報に「文化財散策」を掲載。																												
3 平成25年度の取り組みと自己評価																												
取り組みと成果																												
<p>○公有化計画面積 48,000.00㎡（史跡指定面積の約50%） 総公有化面積 43,757.00㎡（公有化率 91.16%）</p> <p>○文化財普及啓発事業 ・講師派遣等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>事業名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4/17</td> <td>社会科歴史学習（萩野小学校6年）</td> <td>一迫埋蔵文化財センター見学・説明</td> </tr> <tr> <td>5/2</td> <td>社会科歴史学習（一迫小学校6年）</td> <td>一迫埋蔵文化財センター見学・説明</td> </tr> <tr> <td>5/10</td> <td>栗原市転入職員研修会（教員・職員）</td> <td>市内史跡見学及び講話</td> </tr> <tr> <td>5/18</td> <td>史跡伊治城跡見学（岩沼市文化財友の会）</td> <td>史跡伊治城跡見学・説明</td> </tr> <tr> <td>6/11</td> <td>校外学習「町探検」（一迫小学校2年生）</td> <td>一迫埋蔵文化財センター見学・説明</td> </tr> <tr> <td>9/28</td> <td>宮城歴史資料保全ネットワークシンポジウム（県民）</td> <td>市の歴史資料保全の活動経過報告</td> </tr> <tr> <td>10/26</td> <td>親子ふれあい縄文まつり（市民）</td> <td>縄文体験</td> </tr> </tbody> </table> <p>・文化財標柱・説明板の修繕、撤去（4カ所）。古文書解説は3回実施、延98人受講。 ・市内文化財リーフレット第6集(市指定文化財4中世の板碑ほか)・第7集(史跡山王圀遺跡)発行。 広報に「文化財散策」を毎月掲載。</p> <p>○史跡山王圀遺跡の活用事業 山王圀遺跡縄文ボランティアの協力を得て、縄文の畑において、ソバ、エゴマを栽培し、縄文人の食生活の再現を試みる活動を行った。</p>					月日	事業名	内容	4/17	社会科歴史学習（萩野小学校6年）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明	5/2	社会科歴史学習（一迫小学校6年）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明	5/10	栗原市転入職員研修会（教員・職員）	市内史跡見学及び講話	5/18	史跡伊治城跡見学（岩沼市文化財友の会）	史跡伊治城跡見学・説明	6/11	校外学習「町探検」（一迫小学校2年生）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明	9/28	宮城歴史資料保全ネットワークシンポジウム（県民）	市の歴史資料保全の活動経過報告	10/26	親子ふれあい縄文まつり（市民）	縄文体験
月日	事業名	内容																										
4/17	社会科歴史学習（萩野小学校6年）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明																										
5/2	社会科歴史学習（一迫小学校6年）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明																										
5/10	栗原市転入職員研修会（教員・職員）	市内史跡見学及び講話																										
5/18	史跡伊治城跡見学（岩沼市文化財友の会）	史跡伊治城跡見学・説明																										
6/11	校外学習「町探検」（一迫小学校2年生）	一迫埋蔵文化財センター見学・説明																										
9/28	宮城歴史資料保全ネットワークシンポジウム（県民）	市の歴史資料保全の活動経過報告																										
10/26	親子ふれあい縄文まつり（市民）	縄文体験																										
評価																												
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。</p>																											
4 平成26年度に向けた課題・今後の方針																												
伊治城跡整備基本構想について、市民の意見を取り入れながら、策定する必要がある。		➡	調査整備指導委員会の指導助言を仰ぎながら、市民の意見も反映した基本構想を作成し、市民に親しまれるような事業を展開する。																									
5 学識経験者の意見																												
継続的な発掘事業であり、栗原市の重要な文化財保護活動である。近隣の中学校や築館高等学校等の部活動や課題研究と連携することができれば、文化財保護の重要性に対する地域の深化した理解を得られることが期待される。																												

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の推進		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

38「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」

事業概要

市民の健康増進・体力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携し、スポーツ大会等を開催する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

○スポーツ大会等の実施状況

・各種大会等を開催することにより、参加者の健康増進及び体力向上が図られた。

事業名	期日	対象者	参加者数	
			H25	H24
小学生陸上競技交流大会	6/9	市内小学校4年生以上	451人	515人
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	8/3～4	県内・岩手県南・秋田県湯沢市周辺高校生	602人	691人
宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭	8/25	小学3年生以上の市民	500人	600人
栗原市民マラソン大会	11/10	小学生以上	471人	637人
体力・運動能力調査	5月～10月	市内在住20歳～79歳	58人	57人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

「楽・楽・楽スポーツ」のうち、「みる」楽しさと「ささえる」楽しさを体験する機会が少ない。



今後、国際試合や全国規模の大会を招致し、観客やボランティアとして参加できる機会の提供に努める。

5 学識経験者の意見

生涯スポーツを保証するために市民向けに各種大会を開催した。いずれの大会も平成24年度と比べて参加者が減少していることが気になる。参加者の健康増進体力向上が図られたとあるが、「体力・運動能力調査」に基づくものだとしたら、調査数が適切かどうか検討されたい。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の推進		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。

(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

39「栗原市全国大会等参加補助金交付事業(目指せ!日本一)」
「栗原市スポーツ活動費助成補助金等交付事業(やったね!日本一)」

事業概要

選手の育成支援のため、「目指せ!日本一」や「やったね!日本一」スポーツ推進事業として全国大会参加経費等を助成する。

3 平成25年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

○選手の育成支援事業

(1) 「目指せ!日本一」スポーツ支援事業

・全国大会等に参加する団体・個人に対し、参加経費の一部助成を行ったことにより選手等の経費負担の軽減が図られた。

・交付実績

年度	事業費	件数
H25	3,323,000 円	42件(団体・個人)
H24	4,321,000 円	52件(団体・個人)

(2) 「やったね!日本一」スポーツ活動支援事業

・全国大会等で優秀な成績を取った団体・個人に対し、活動費の助成や競技用具の購入助成を行った。

・交付実績

年度	事業費	件数	摘要
H25	110,000 円	5件(個人)	第51回全国防具付空手道選手権大会 優勝:2人(男子小3の部、男子小4の部) 準優勝:2人(男子小5の部、女子小2の部) 第3位:1人(女子小4の部)
H24	50,000 円	3件(個人)	第50回全国防具付空手道選手権大会 優勝:1人(女子小2の部) 第3位:2人(男子小2の部)

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。

B 概ね計画どおり目標が達成された。

C 課題があり、改善を要する。

4 平成26年度に向けた課題・今後の方針

「やったね!日本一」スポーツ活動支援事業の交付実績が少ない。



補助金交付事業の目的や概要を広報誌等に掲載するなど、広く周知するとともに、関係団体との連携を図り、競技力向上に努める。

5 学識経験者の意見

全国大会参加には旅費の他に器具やユニフォームの新調など、個人が負担すべき費用は少なくない。「栗原市全国大会参加補助金」は参加者が栗原市にスポーツ文化を持ち帰ることを考えると意義ある補助金である。一方、特に子どもたちのスポーツ活動は子どもたちの成長が目的であり、その大会での成績は二義的なものである。少なくとも小、中、高校生を対象としたスポーツの一義的な目的を競技力向上とすることは避けるべきである。

3 学識経験者からの意見（総評）

（田幡 憲一氏）

（越中 康治氏）

確かな学力を育成する（幼稚園教育）

幼稚園預かり保育事業や幼稚園就園奨励事業などの利用者（保護者）ニーズに応える取り組みや防災教育の推進が着実になされている点は高く評価できる。また、非常勤職員を含めて研修の機会が保障されている点も評価できる。他方、利用者ニーズが多様化する中、子育てに難しさを抱える家庭への支援も含めて、幼稚園教育関係者に求められる役割は年々増大している。幼稚園教諭等への負担が過重なものとなっていないかに今後も留意していく必要がある。保育の質を保障していく上では、人的・物的環境が適正であるかを絶えず検証していく必要がある。園庭や園舎等について必要な改善を図るとともに、保育者が生涯にわたって専門性を高めていける体制の維持・拡充を期待したい。

確かな学力を育成する（小・中学校教育）

施設整備や学習支援ボランティア、学び支援コーディネーターの活用、特別支援コーディネーターへの支援等、教育委員会の学校に対する支援が着実になされていることは評価できる。

一方、授業力向上に資する教員の学びを積極的に支援・指導する方策が初任者研修と栗原市教育研究協議会に対する支援のみであることはいささか寂しい。県内の教育研究協議会の活動が講演会開催や、施設見学であることも珍しくない。協働した授業づくりと研究授業、それに続く授業検討会・教材研究のワークショップが授業力向上にもっとも有効な手立てであり、教育委員会として積極的に推進することを期待したい。

豊かな心を育む

教育相談員やスクールソーシャルワーカーといった人材を活用しつつ、適応指導教室事業や問題を抱える子ども等の自立支援事業がなされている点は高く評価できる。特に不登校児童生徒等への支援においては、目先の学校復帰数などにとらわれることなく、「いつでも相談支援ができる体制」と「個に応じ認め合う環境」が整備されているといえるかを絶えず問い続ける必要がある。また、いじめ防止対策事業も含め、豊かな心を育む基盤となるのは日々の学校づくりであろう。教諭が日々の授業づくりや集団づくりに専念できる体制の維持・拡充が求められる。

心身の健康と体力の向上を図る

栄養士による食に関する指導、夏期休業中のプール開放、防災教育などの活動がなされていることは評価できる。これらの活動を通常の授業と関連させていくとより高い効果が期待できる。

共に助け合い潤いに満ちた地域社会

例えば、家庭教育学級について、平成 25 年度より保育所の保護者も対象に含め、平成 26 年度以降は中学校も対象に含めることを検討されている点など、事業の充実に向けた地道な努力に敬意を表したい。他方、事業内容がマンネリ化してきているとの自己評価があったり、事業改善の課題として前年度と同様の内容が挙げられている点については、改善が必要であろう。家庭教育サポーター・子育てサポーター、協働教育コーディネーター、ジュニア・リーダー等の有為な人材資源の主体的な取り組みを引き出し、活性化を図っていただきたい。

地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術

課題を持ちながらも、文化財の保護活動を進めている。特に史跡伊治城跡の調査保全に力を注いでいることが添付資料等からも理解できる。これらの活動によって得られた資料を教材化する活動を教育委員会が主導して行い、学校教育や生涯教育に資するものとなれば、より意義が深くなる。

楽しさと活力ある生涯スポーツ

市民参加型の様々なスポーツイベントや全国大会出場者への支援など、生涯スポーツの普及を目指した活動を行っている。

成人にとっては健康の増進と体力の向上が、小、中、高等学校の児童・生徒にとっては自主自律的な活動の中で問題解決の能力を養い協働の楽しさとその方法を体験的に学習することが、本来の目的である。安全には十分配慮すべきであるが、勝敗にこだわる必要は無いと考える。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価（以下「点検・評価」と記載）を、昨年度に引き続き、学識経験者として宮城教育大学からお二人の先生にご意見をいただき実施した。

今後は、各施策に掲げた事業について、P l a n（計画）⇒D o（実行）⇒C h e c k（評価）⇒A c t（改善）を常に意識しながら、将来を見据えた継続的・安定的な教育行政を推進するとともに、総評の中でご意見をいただいた以下の点について、次のように対応してまいりたい。

確かな学力を育成する（幼稚園教育）

幼稚園預かり保育事業や幼稚園就園奨励事業など利用者のニーズに応える取り組みや防災教育の推進への評価をいただくとともに、利用者のニーズが多様化する中で保育の質の向上を図るための人的・物的環境の検証と改善及び保育者の専門性の向上に資する体制の維持・拡充などのご意見をいただいた。

今後は、平成26年度に開設した教育研究センターによる階層別研修などの実施を検討してまいりたい。

また、預かり保育利用希望者の増加に対応した定員の見直しや市内幼稚園すべての3年保育実施をふまえた園舎などの施設整備を進めてまいりたい。

確かな学力を育成する（小・中学校教育）

小・中学校教育の分野については、施設整備や学習支援ボランティア・学び支援コーディネーターの活用、特別支援コーディネーターへの支援など学校に対する支援方策への評価をいただくとともに、教員の学びを積極的に支援・指導する方策の拡充などのご意見をいただいた。

今後は、教職員研修のあり方を見直すとともに、教育研究センターを活用した職務別・階層別研修会などを検討し、授業力向上対策を図ってまいりたい。

豊かな心を育む

教育相談員やスクールソーシャルワーカーの活用、適応指導教室事業や問題を抱える子どもなどへの自立支援事業に対して評価をいただくとともに、不登校児童生徒などへの支援体制の検証や教員が日々の授業や集団づくりに専念できる体制の維持・拡充などのご意見をいただいた。

今後は、不登校児童生徒などに対し、学校・保護者と連携して、相談支援体制や個に応じ認め合う環境づくりを推進してまいりたい。

また、教員の負担軽減のため効率的な事業の進め方などを意識した取り組みを検討、推進してまいりたい。

心身の健康と体力の向上を図る

栄養士による食育、夏季休業中のプール開放、防災教育などに評価をいただくとともに、より効果を高めるために通常の授業との関連を図ることなどのご意見をいただきました。

今後は、このご意見を活かした質的な拡充を図ってまいりたい。

共に助け合い潤いに満ちた地域社会

家庭教育学級における事業拡充に向けた取り組みへの評価をいただくとともに、事業内容のマンネリ化などの改善及び家庭教育サポーター、子育てサポーター、協働教育コーディネーターなどの人的資源の主体的な取り組みを引き出し、活性化を図ることなどのご意見をいただきました。

今後は、引き続き学校はもとより市民の理解を得るための情報提供を行いながら、多様なニーズへの柔軟な対応や人的資源の活用を図りながら、事業を実施してまいりたい。

地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術

史跡伊治城の調査・保全などの文化財保護活動に評価をいただくとともに、発掘調査などで得られた歴史資料を教材化し、学校教育や生涯教育において活用することなどのご意見をいただきました。

今後は、文化遺産である史跡は大切に保存・保護し、意識高揚のための啓発を図るとともに、先人から伝承されてきた伝統技術や民俗芸能などは風化させることなく次世代に継承させる取り組みをを拡充してまいりたい。

楽しさと活力ある生涯スポーツ

ライフステージにあわせた生涯スポーツの目的やあり方へのご意見をいただきました。

今後は、市民ニーズの把握に努め、事業の質的な向上と拡充を図ってまいりたい。

今回の「点検・評価」の結果は、市議会ははじめ市民の皆さまに報告・公表することにより、常に事業の有効性についての意識を持ちながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めてまいります。